



CLUSTERPRO X SingleServerSafe 5.3 for Linux

操作ガイド

リリース 6

日本電気株式会社

2026 年 10 月 02 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	1
1.2	本書の構成	2
1.3	本書で記述される用語	3
1.4	CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系	4
1.5	本書の表記規則	5
1.6	最新情報の入手先	7
第 2 章	CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス	9
2.1	コマンドラインから操作する	11
2.2	コマンド一覧	12
2.3	状態を表示する (clpstat コマンド)	14
2.4	CLUSTERPRO デーモンを操作する (clpcl コマンド)	23
2.5	サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	29
2.6	グループを操作する (clpgrp コマンド)	30
2.7	ログを収集する (clplogcc コマンド)	35
2.8	構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)	48
2.9	タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)	62
2.10	ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)	66
2.11	ライセンスを管理する (clplnsc コマンド)	69
2.12	メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)	76
2.13	モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	79
2.14	グループリソースを制御する (clprsc コマンド)	84
2.15	クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	89
2.16	再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)	94
2.17	プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)	97
2.18	クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)	100
2.19	クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)	103
2.20	ファイアウォールの規則を追加する (clpfwctrl.sh コマンド)	105
2.21	SELinux 用の設定をおこなう (clpselctrl.sh コマンド)	109
2.22	サービスの自動起動を有効/無効化する (clpsvcctrl コマンド)	114
第 3 章	注意制限事項	117

3.1	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後	118
第 4 章	エラーメッセージ一覧	125
4.1	syslog、アラート、userlog、メール通報、SNMP トラップメッセージ、Message Topic	126
4.2	ドライバの syslog メッセージ	214
4.3	グループリソース活性/非活性時の詳細情報	225
4.4	モニタリソース異常時の詳細情報	228
4.5	JVM モニタリソースのログ出力メッセージ	252
4.6	クラスタ構成情報チェックの詳細情報	271
第 5 章	免責・法的通知	275
5.1	免責事項	275
5.2	商標情報	276
第 6 章	改版履歴	277

第 1 章

はじめに

1.1 対象読者と目的

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

1.2 本書の構成

- 「2. *CLUSTERPRO X SingleServerSafe* コマンドリファレンス」：CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。
- 「3. 注意制限事項」：既知の問題と制限事項について説明します。
- 「4. エラーメッセージ一覧」：CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

1.3 本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。

以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

クラスタ、クラスタシステム

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム

クラスタシャットダウン/リブート

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート

クラスタリソース

CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース

クラスタオブジェクト

CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト

フェイルオーバーグループ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース（アプリケーション、サービスなど）をまとめたグループ

1.4 CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 3 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux インストールガイド』 (Install Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux 設定ガイド』 (Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux 操作ガイド』 (Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

1.5 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h <i>host_name</i>]</code>
#	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	<code># clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント	パス名、コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	<code>/Linux/5.3/jp/server/</code>
太字	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code># clpcl -s -a</code>
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>rpm -i clusterprosss-<バージョン番号>-<リリース番号>.x86_64.rpm</code>



本書の図では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を表すために このアイコンを使用します。

1.6 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 2 章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- 2.1. コマンドラインから操作する
- 2.2. コマンド一覧
- 2.3. 状態を表示する (*clpstat* コマンド)
- 2.4. CLUSTERPRO デーモンを操作する (*clpcl* コマンド)
- 2.5. サーバをシャットダウンする (*clpstdn* コマンド)
- 2.6. グループを操作する (*clpgrp* コマンド)
- 2.7. ログを収集する (*clplogcc* コマンド)
- 2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (*clpcfctrl* コマンド)
- 2.9. タイムアウトを一時調整する (*clptoratio* コマンド)
- 2.10. ログレベル/サイズを変更する (*clplogcf* コマンド)
- 2.11. ライセンスを管理する (*clplnsc* コマンド)
- 2.12. メッセージを出力する (*clplogcmd* コマンド)
- 2.13. モニタリソースを制御する (*clpmonctrl* コマンド)
- 2.14. グループリソースを制御する (*clprsc* コマンド)

- 2.15. クラスタサーバに処理を要求する (*clprexec* コマンド)
- 2.16. 再起動回数を制御する (*clpregctrl* コマンド)
- 2.17. プロセスの健全性を確認する (*clphealthchk* コマンド)
- 2.18. クラスタ統計情報を表示する (*clpperfc* コマンド)
- 2.19. クラスタ構成情報をチェックする (*clpcfchk* コマンド)
- 2.20. ファイアウォールの規則を追加する (*clpfwctrl.sh* コマンド)
- 2.21. SELinux 用の設定をおこなう (*clpselctrl.sh* コマンド)
- 2.22. サービスの自動起動を有効/無効化する (*clpsvcctrl* コマンド)

2.1 コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や Cluster WebUI が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、Cluster WebUI で行える以上の種類の操作を行うことができます。

注釈: モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、以下のコマンドまたは、Cluster WebUI からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- サービスの停止/サスペンド
- グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

2.2 コマンド一覧

- 構築関連

コマンド	説明	関連
clpcfctrl	Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに配信します。 Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。	2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (<i>clpcfctrl</i> コマンド)
clplcncs	本製品の製品版・試用版ライセンスを管理します。	2.11. ライセンスを管理する (<i>clplcncs</i> コマンド)
clpcfchk	クラスタ構成情報をチェックします。	2.19. クラスタ構成情報をチェックする (<i>clpcfchk</i> コマンド)
clpfwctrl.sh	ファイアウォールの規則を追加します。	2.20. ファイアウォールの規則を追加する (<i>clpfwctrl.sh</i> コマンド)
clpselctrl.sh	SELinux 用の設定をおこないます。	2.21. SELinux 用の設定をおこなう (<i>clpselctrl.sh</i> コマンド)
clpsvcctrl.sh	サービスの自動起動の種類を変更します。	2.22. サービスの自動起動を有効/無効化する (<i>clpsvcctrl</i> コマンド)

- 状態表示関連

コマンド	説明	関連
clpstat	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	2.3. 状態を表示する (<i>clpstat</i> コマンド)
clphealthchk	プロセスの健全性を確認します。	2.17. プロセスの健全性を確認する (<i>clphealthchk</i> コマンド)

- 操作関連

コマンド	説明	関連
clpcl	デーモンの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。	2.4. CLUSTERPRO デーモンを操作する (<i>clpcl</i> コマンド)

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

コマンド	説明	関連
clpstdn	CLUSTERPRO デーモンを停止し、サーバをシャットダウンします。	2.5. サーバをシャットダウンする (<i>clpstdn</i> コマンド)
clpgrp	グループの起動、停止を実行します。	2.6. グループを操作する (<i>clpgrp</i> コマンド)
clptoratio	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	2.9. タイムアウトを一時調整する (<i>clptoratio</i> コマンド)
clpmonctrl	単一サーバ上でのモニタリソースの一時停止/再開を行います。	2.13. モニタリソースを制御する (<i>clpmonctrl</i> コマンド)
clpregctrl	単一サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。	2.16. 再起動回数を制御する (<i>clpregctrl</i> コマンド)
clprsc	グループリソースの一時停止/再開を行います。	2.14. グループリソースを制御する (<i>clprsc</i> コマンド)
clprexec	外部監視から CLUSTERPRO サーバへ処理実行を要求します。	2.15. クラスタサーバに処理を要求する (<i>clprexec</i> コマンド)

- ログ関連

コマンド	説明	関連
clplogcc	ログ、OS 情報等を収集します。	2.7. ログを収集する (<i>clplogcc</i> コマンド)
clplogcf	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	2.10. ログレベル/サイズを変更する (<i>clplogcf</i> コマンド)
clpperfc	グループ、モニタリソースに関するクラスタ統計情報を表示します。	2.18. クラスタ統計情報を表示する (<i>clpperfc</i> コマンド)

- スクリプト関連

コマンド	説明	関連
clplogcmd	EXEC リソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	2.12. メッセージを出力する (<i>clplogcmd</i> コマンド)

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

2.3 状態を表示する (clpstat コマンド)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat [--long]
clpstat -s [--long]
clpstat -s [--cl | --sv <srvname> | --hb <hbname> | --grp | --grp <grpname> | --rsc <rscname> | --mon | --mon
<monname>]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [group_name] [--detail]
clpstat --rsc [resource_name] [--detail]
clpstat --mon [monitor_name] [--detail]
```

説明

サーバの状態や、設定情報を表示します。

パラメータ

-s, オプションなし

状態を表示します。

```
-s {--cl | --sv <srvname> | --hb <hbname> | --grp | --grp <grpname> | --rsc <rscname>
| --mon | --mon <monname>}
```

指定したコンポーネントの状態に応じた値を返却します。詳細については「[-s オプションを使用した戻り値の詳細](#)」で説明します。

--long

クラスタ名やリソース名などの名前を最後まで表示します。

-g

グループマップを表示します。

-m

各モニタリソースの状態を表示します。

-i

設定情報を表示します。

--cl

設定情報を表示します。

--sv

サーバの設定情報を表示します。

--grp [group_name]

グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。

--rsc [resource_name]

グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。

--mon [monitor_name]

モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。

--detail

このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。

戻り値

0	成功
上記以外	異常

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドの出力結果で使用する言語は『設定ガイド』の「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「情報タブ」を参照してください。

オプションを指定しない場合と -s オプションを指定する場合は、サーバ名やリソース名などの名前が途中でしか出力されません。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO Information Base サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid server group name. Specify a valid server group name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバグループ名を指定してください。
The cluster is not created.	クラスタ構成情報を作成し、反映してください。

次のページに続く

表 2.6 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Could not connect to the server. Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Cluster is stopped. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Cluster is suspended. To display the cluster status, use --local option.	クラスタがサスペンド状態です。クラスタの状態を表示するには、--local オプションを使用してください。

2.3.1 -s オプションを使用した戻り値の詳細

クラスタの状態を表示する (-s --cl)

クラスタの状態に応じた値を返却します。

実行例

```
# clpstat -s --cl
```

表示例

```
Cluster   : Normal
Servers   : Normal
Groups    : Normal
Monitors  : Normal
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
0	Normal	正常
2	Offline	停止済
3	Caution	異常 (一部)
9	Unknown	状態不明
10	Suspend	サスペンド中
上記以外	-	内部エラー

特定のサーバの状態を表示する (-s --sv <srvname>)

指定したサーバの状態に応じた値を返却します。[--sv] オプションの後にサーバ名を指定して実行します。

実行例

```
# clpstat -s --sv server1
```

表示例

```
Server server1 : Online
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
1	Online	起動済
2	Offline	停止済
7	Online Pending	起動処理中
8	Offline Pending	停止処理中
10	Suspend	サスペンド中
-	(Dummy failure)*1	擬似障害
上記以外	-	内部エラー

特定のハートビートリソースの状態を表示する (-s --hb <hbname>)

指定したハートビートリソースの状態に応じた値を返却します。[--hb] オプションの後にハートビートリソース名を指定して実行します。

実行例

```
# clpstat -s --hb lankhb1
```

表示例

```
HB lankhb1 : Normal
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
0	Normal	正常
2	Offline	停止済
3	Caution	異常 (一部)

[次のページに続く](#)

*1 いずれかの状態の後に続いて表示されます。戻り値は状態に応じた値が返却されます。

表 2.9 – 前のページからの続き

戻り値	状態	説明
4	Error	異常 (全部)
15	Unused	未使用
上記以外	-	内部エラー

全てのグループの状態を表示する (-s --grp)

全てのグループの状態に応じた値を返却します。

実行例

```
# clpstat -s --grp
```

表示例

```
Groups      : Normal
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
0	Normal	正常
3	Caution	異常 (一部)
4	Error	異常 (全部)
上記以外	-	内部エラー

特定のグループの状態を表示する (-s --grp <grpname>)

指定したグループの状態に応じた値を返却します。[--grp] オプションの後にグループ名を指定して実行します。

実行例

```
# clpstat -s --grp failover1
```

表示例

```
Group failover1 : Online (current server1)
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
1	Online	起動済
2	Offline	停止済
4	Error	異常
7	Online Pending	起動処理中
8	Offline Pending	停止処理中
9	Unknown	状態不明
上記以外	-	内部エラー

特定のグループリソースの状態を表示する (-s --rsc <rscname>)

指定したグループリソースの状態に応じた値を返却します。[--rsc] オプションの後にグループリソース名を指定して実行します。

実行例

```
# clpstat -s --rsc exec1
```

表示例

```
Resource exec1 : Online (current server1)
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
1	Online	起動済
2	Offline	停止済
5	Online Failure	起動失敗
6	Offline Failure	停止失敗
7	Online Pending	起動処理中
8	Offline Pending	停止処理中
9	Unknown	状態不明
上記以外	-	内部エラー

全てのモニタの状態を表示する (-s --mon)

全てのモニタの状態に応じた値を返却します。

実行例

```
# clpstat -s --mon
```

表示例

```
Monitors      : Normal
```

戻り値と状態一覧

戻り値	状態	説明
0	Normal	正常
2	Offline	停止済
3	Caution	警告
4	Error	異常 (全部)
9	Unknown	状態不明
-	(Failure Verifi- cation)*2	擬似障害
-	(Failure Verifica- tion/Recovery Action Dis- abled)*2	擬似障害/異常検出による回復動作無効
-	(Recovery Action Dis- abled)*2	異常検出による回復動作無効
上記以外	-	内部エラー

特定のモニタリソースの状態を表示する (-s --mon <monname>)

指定したモニタリソースの状態に応じた値を返却します。[--mon] オプションの後にモニタリソース名を指定して実行します。

実行例

```
# clpstat -s --mon ipw1
```

表示例

```
Monitor ipw1 : Normal
```

戻り値と状態一覧

*2 いずれかの状態の後に続いて表示されます。戻り値は状態に応じた値が返却されます。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 5.3 for Linux

操作ガイド, リリース 6

戻り値	状態	説明
0	Normal	正常
2	Offline	停止済
3	Caution	警告
4	Error	異常 (全部)
9	Unknown	状態不明
10	Suspend	一時停止
-	(Dummy failure)*3	擬似障害
上記以外	-	内部エラー

*3 いずれかの状態の後に続いて表示されます。戻り値は状態に応じた値が返却されます。

2.4 CLUSTERPRO デーモンを操作する (clpcl コマンド)

CLUSTERPRO デーモンを操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s
clpcl -t [-w timeout] [--apito timeout]
clpcl -r [-w timeout] [--apito timeout]
clpcl --suspend [--force] [-w timeout] [--apito timeout]
clpcl --resume
```

説明

CLUSTERPRO デーモンの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。

パラメータ

-s

CLUSTERPRO デーモンを起動します。

-t

CLUSTERPRO デーモンを停止します。

-r

CLUSTERPRO デーモンを再起動します。

--suspend

CLUSTERPRO デーモンをサスペンドします。

--resume

CLUSTERPRO デーモンをリジュームします。

-w timeout

-t, -r, --suspend オプションの場合にのみ clpcl コマンドが CLUSTERPRO デーモンの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を指定します。

単位は秒です。

timeout の指定がない場合、無限に待ち合わせします。

timeout に"0"を指定した場合、待ち合わせしません。

-w オプションを指定しない場合、

(ハートビートタイムアウト×2) 秒待ち合わせします。

--force

--suspend オプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。

--apito timeout

CLUSTERPRO デーモンの停止、再起動、サスペンドを待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドを -s または --resume オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。

-t または --suspend オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。

-r オプションで実行した場合、対象のサーバで CLUSTERPRO デーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。

CLUSTERPRO デーモンの起動またはリジュームの状況は clpstat コマンドで確認してください。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPRO デーモンが起動した状態で実行してください。--force オプションを用いると、強制的にサスペンドを実行します。

リジュームを実行する場合は、clpstat コマンドを用いて CLUSTERPRO デーモンが起動していないかを確認してください。

実行例

例 1: サーバの CLUSTERPRO デーモンを起動させる場合

```
# clpcl -s
```

サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO デーモンを停止させることができます。この状態をサスペンドといいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることをリジュームといいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、サーバの CLUSTERPRO デーモンが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO デーモンが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。(起動、停止)
- 以下のコマンドが使用不可となります。
 - clpcl の --resume 以外のオプション
 - clpstdn
 - clpgrp
 - clptoratio
 - clpmonctrl

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster daemon.	停止している CLUSTERPRO デーモンに対して停止処理を実行しました。
Performed startup processing to the active cluster daemon.	起動している CLUSTERPRO デーモンに対して起動処理を実行しました。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。

次のページに続く

表 2.15 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to obtain the list of nodes.Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to obtain the daemon name.	クラスタ名の取得に失敗しました。
Failed to operate the daemon.	クラスタの制御に失敗しました。
Resumed the daemon that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO デーモンに対して、リジューム処理を実行しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster daemon is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster daemon is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが起動しているサーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster daemon need to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全てのサーバで、CLUSTERPRO デーモンが起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバがあるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。

次のページに続く

表 2.15 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、処理に失敗したサーバが存在します。処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
There is a server that is not suspended in cluster. Check the status of each server.	クラスタ内にサスペンド状態でないサーバが存在します。 各サーバの状態を確認してください。
Suspend %s : Could not suspend in time.	サーバはタイムアウト時間内に CLUSTERPRO デーモンのサスペンド処理が完了しませんでした。サーバの状態を確認してください。
Stop %s : Could not stop in time.	サーバはタイムアウト時間内に CLUSTERPRO デーモンの停止処理が完了しませんでした。サーバの状態を確認してください。
Stop %s : Server was suspended. Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active..	CLUSTERPRO デーモンの停止要求をしましたが、サーバはサスペンド状態でした。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンの停止要求をしましたが、サーバに接続できませんでした。 サーバの状態を確認してください。
Suspend %s : Server already suspended. Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンのサスペンド要求をしましたが、サーバはサスペンド状態でした。

次のページに続く

表 2.15 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Event service is not started.	イベントサービスが起動していません。 確認してください。
Mirror Agent is not started.	ミラーエージェントが起動していません。 確認してください。
Event service and Mirror Agent are not started.	イベントサービスとミラーエージェントが起動していません。確認してください。
Some invalid status. Check the status of cluster.	遷移中のグループが存在する可能性があります。 グループの遷移が終了してから、再度実行してください。

2.5 サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

```
clpstdn [-r]
```

説明

サーバの CLUSTERPRO デーモンを停止し、シャットダウンします。

パラメータ

オプションなし

サーバシャットダウンを実行します。

-r

サーバシャットダウンリブートを実行します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドは、グループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻します。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

実行例

例 1: サーバシャットダウンを行う場合

```
# clpstdn
```

例 2: サーバシャットダウンリブートを行う場合

```
# clpstdn -r
```

2.6 グループを操作する (clpgrp コマンド)

グループを操作します。

コマンドライン

```
clpgrp -s [group_name] [--apito timeout]
```

```
clpgrp -t [group_name] [--apito timeout]
```

説明

グループの起動、停止を実行します。

パラメータ

-s [group_name]

グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。

-t [group_name]

グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

--apito timeout

グループの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバは CLUSTERPRO デーモンが起動している必要があります。

実行例

グループ操作の実行を、簡単な例で説明します。

サーバで、「groupA」を持っている場合

- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が起動します。

```
# clpgrp -s groupA
```

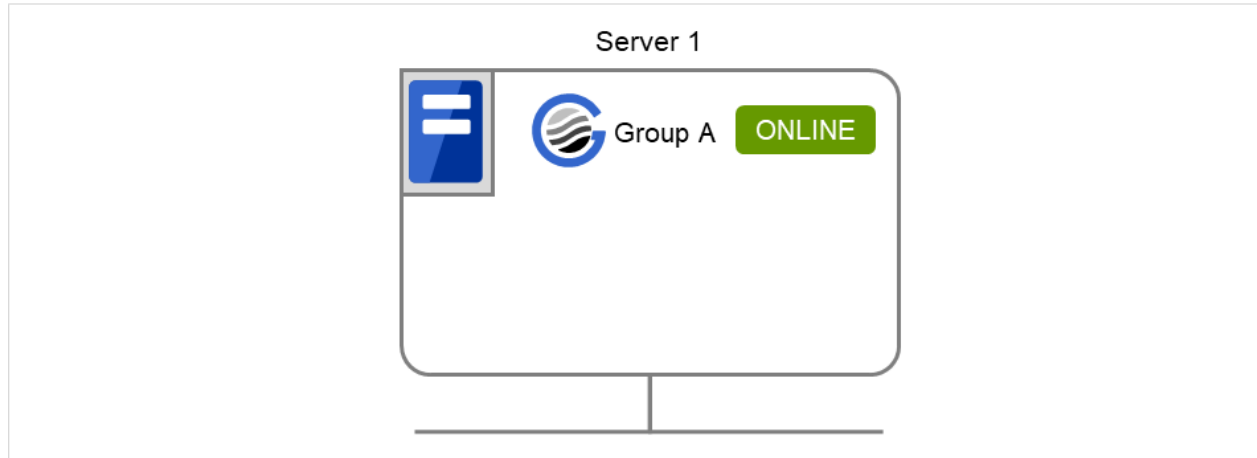


図 2.1 グループ起動

- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が停止します。

```
# clpgrp -t groupA
```

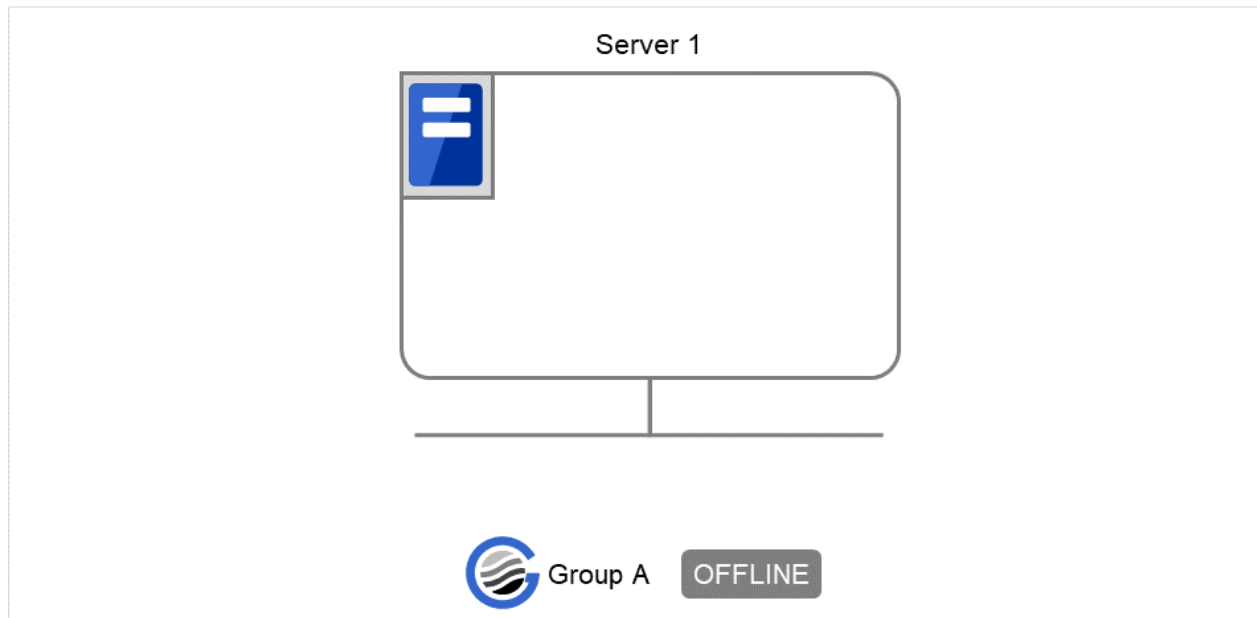


図 2.2 グループ停止

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか 確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が 設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you move the group.	グループを起動、停止、移動する先のサーバが不正です。 正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち 時間がタイムアウトするのを待って、グループを起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループが存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f option.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを自サーバで起動/停止させたい場合は、グループの移動を実行するか、-f オプションを加えて実行してください。
The group has already been started on the other server. To move the group, use "-h <hostname>" option.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを移動したい場合は、"-h <hostname>" オプションを加えて実行してください。
Failed to start one or more group resources. Check the status of group	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more group resources. Check the status of group	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Server is not in a condition to start group or any critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでサーバの状態を確認してください。 グループを起動しようとしたサーバで「フェイルオーバー先サーバの除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニタの異常が検出されています。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
There is no appropriate destination for the group. Other servers are not in a condition to start group or any critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでサーバの状態 を確認してください。 他の全てのサーバで「フェイルオーバー先サーバの 除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニ タの異常が検出されています。
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。クラスタの状態を確認 してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられ ます。確認してください。

2.7 ログを収集する (clplogcc コマンド)

ログを収集します。

コマンドライン

```
clplogcc [-t collect_type] [-r syslog_rotate_number] [-o path]
```

説明

データ転送サーバに接続し、ログ、OS 情報等を収集します。

パラメータ

なし

ログを収集します。

-t collect_type

ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは type1 です。

-r syslog_rotate_number

syslog の収集する世代数を指定します。省略した場合は、2 世代収集します。

-o path

収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tar コマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

実行例

例 1: サーバからログを収集する場合

```
# clplogcc
```

```
Collect Log server1 : Success
```

ログ収集を実行したサーバの実行結果（サーバ状態）が表示されます。

処理過程 サーバ名 : 実行結果 (サーバ状態)

- 実行結果

本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Connect	接続に失敗した場合に表示します。
Get Filesize	ファイルサイズ取得に失敗した場合に表示します。
Collect Log	ファイル取得の結果を表示します。

実行結果 (サーバ状態) については以下になります。

実行結果 (サーバ状態)	説明
Success	成功です。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
Not Exist File	ファイルが存在しません。
No Freespace	ディスクに空き容量がありません。
Failed	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しい構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Specify correct generation number of syslog.	正しい syslog の世代数を指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4' or 'type5' or 'type6'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。

次のページに続く

表 2.19 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The specified output-path does not exist.	-o オプションで指定したパスが存在しません。 正しいパスを指定してください。
Specify an absolute path as the destination of the files to be collected.	収集ファイルの出力先は絶対パスで指定してください。
Specifiable number of servers are the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、構成可能な最大サーバ数です。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.7.1 タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 6、proactdiag を指定します。

	type1	type2	type3	type4	type5	type6	proactdiag
1. デフォルト収集情報	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓
2. syslog	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓
3. core	✓	✓	n/a	✓	n/a	n/a	n/a
4. OS 情報	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓

次のページに続く

表 2.20 – 前のページからの続き

	type1	type2	type3	type4	type5	type6	proactdiag
5. script	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	✓
6. ESMPRO/AC	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
7. HA ログ	n/a	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
8. ミラー統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
9. クラスタ統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓
10. システムリソース統計情報	✓	✓	✓	✓	n/a	✓	✓
11. プロアクティブ診断ログ	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例：収集タイプ type2 でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは type1 です。

1. デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
- アラートログ
- CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報 (ls -l)
 - bin、lib 配下
 - alert/bin、webmgr/bin 配下
 - ha/jra/bin、ha/sra/bin、ha/jra/lib、ha/sra/lib 配下
 - drivers/md 配下

- drivers/khb 配下
- drivers/ka 配下
- CLUSTERPRO のモジュールに対する SELinux コンテキストの適用規則 (clpselctrl.sh --list の実行結果)
- CLUSTERPRO インストールパス配下の SELinux コンテキスト情報 (ls -ZR の実行結果)
- インストール済の全パッケージ情報 (rpm -qa の実行結果)
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報 (rpm -qi clusterpro の実行結果)
- distribution 情報 (/etc/*-release)
- ライセンス情報
- 構成情報ファイル
- ポリシファイル
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
- CLUSTERPRO のステータス状態 (clpstat --local の実行結果)
- プロセス、スレッド情報 (ps、top の実行結果)
- PCI デバイス情報 (lspci の実行結果)
- サービス情報 (systemctl、chkconfig、ls コマンド等の実行結果)
- kernel パラメータの出力結果 (sysctl -a の実行結果)
- glibc バージョン (rpm -qi glibc の実行結果)
- カーネルロードブルモジュール設定情報 (/etc/modules.conf、/etc/modprobe.conf)
- カーネルのリングバッファ情報 (dmesg の実行結果)
- ファイルシステム情報 (/etc/fstab)
- IPC リソース情報 (ipcs の実行結果)
- システム情報 (uname -a の実行結果)
- ネットワーク統計情報 (netstat, ss の実行結果 IPv4/IPv6)
- ip (ip addr,link,maddr,route,-s l の実行結果)
- 全ネットワークインターフェイス情報 (ethtool の実行結果)
- 緊急 OS シャットダウン時の採取情報
- libxml2 バージョン (rpm -qi libxml2 の実行結果)

- 静的ホストテーブル (/etc/hosts)
- ファイルシステムのエクスポートテーブル (exportfs -v の実行結果)
- ユーザリソース制限情報 (ulimit -a の実行結果)
- カーネルベースの NFS でエクスポートされるファイルシステム (/etc/exports)
- OS のロケール (locale)
- ターミナルセッションの環境変数 (export の実行結果)
- 言語ロケール (/etc/sysconfig/i18n)
- タイムゾーン (env - date の実行結果)
- CLUSTERPRO サーバのワーク領域情報
- 各監視オプション製品に関する情報
監視オプション製品をインストールされていれば収集されます
- モニタリソースのタイムアウト発生時に採取したダンプ情報
- Oracle モニタリソース異常検出時に採取した Oracle 詳細情報
- Cluster WebUI の操作ログ
- API サービスの操作ログ
- AWS 関連の情報

以下のコマンドの実行結果

- which aws
- aws --version
- aws configure list
- aws ec2 describe-network-interfaces
- aws ec2 describe-instance-attribute --attribute disableApiStop

以下のインスタンスメタデータ

- ami-id
- instance-type
- availability-zone
- region

- OCI 関連の情報

以下のインスタンスメタデータ

- image
- shape
- availabilityDomain
- region

- Google Cloud 関連の情報

以下のインスタンスメタデータ

- image
- vmSize
- zone

- Azure 関連の情報

以下のインスタンスメタデータ

- imageReference
- location
- vmSize
- zone

2. syslog

- syslog (/var/log/messages)
- syslog (/var/log/syslog)
- 指定された世代数の syslog (/var/log/messages.x)
- journal ログ (/var/run/log/journal/ 配下のファイルなど)

3. core ファイル

- CLUSTERPRO モジュールの core ファイル
/opt/nec/clusterpro/log 配下に以下のアーカイブ名で格納されます。

アラート関連

altyyyyymmdd_x.tar

WebManager サーバ関連

wmyyyyymmdd_x.tar

CLUSTERPRO コア関連

clsyyyymmdd_x.tar

srayyyyymmdd_x.tar

jrayyyyymmdd_x.tar

yyyymmdd はログの収集日付、*x* はシーケンシャル番号になります。

4. OS 情報

- カーネルモード LAN ハートビート、キープアライブ情報

- /proc/khb_moninfo

- /proc/ka_moninfo

- /dev

- /proc/devices

- /proc/mdstat

- /proc/modules

- /proc/mounts

- /proc/meminfo

- /proc/cpuinfo

- /proc/partitions

- /proc/pci

- /proc/version

- /proc/ksyms

- /proc/net/bond*

- /proc/scsi/ ディレクトリ内の全ファイル

- /proc/ide/ ディレクトリ内の全ファイル

- /etc/fstab

- /etc/rc*.d

- /etc/syslog.conf

- /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf
- /proc/sys/kernel/core_pattern
- /proc/sys/kernel/core_uses_pid
- /etc/snmp/snmpd.conf
- カーネルのリングバッファ情報 (dmesg の実行結果)
- ifconfig (ifconfig の実行結果)
- iptables (iptables -L の実行結果)
- ipchains (ipchains -L の実行結果)
- df (df の実行結果)
- raw デバイス情報 (raw -qa の実行結果)
- カーネルモジュールロード情報 (lsmod の実行結果)
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname、domainname の実行結果)
- dmidecode (dmidecode の実行結果)
- LVM デバイス情報 (vgdisplay -v の実行結果)
- snmpd バージョン情報 (snmpd -v の実行結果)
- 仮想化基盤情報 (virt-what の実行結果)
- lsblk (lsblk -i の実行結果)
- getenforce (getenforce の実行結果)

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

5. スクリプト

Cluster WebUI で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプト (/opt/nec/clusterpro/scripts 以外) を指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

6. ESMPRO/AC 関連ログ

acupslog コマンドの実行により収集されるファイル

7. HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

8. ミラー統計情報

このバージョンでは収集されません。

9. クラスタ統計情報

- クラスタ統計情報
- /perf/cluster 配下

10. システムリソース統計情報

- システムリソース統計情報
- /perf/system 配下

11. プロアクティブ診断ログ

- 追加ログ採取ツールの実行により収集されるファイル

2.7.2 syslog の世代 (-r オプション)

syslog を、指定した世代分収集するには以下のように実行します。

例) 世代数 3 でログ収集を行う場合

```
# clplogcc -r 3
```

収集したログには以下の syslog が含まれています。

/var/log/messages

/var/log/messages.1

/var/log/messages.2

- オプションを指定しない場合は、2 世代収集されます。

- 指定できる世代数は、0～99 です。
- 0 を指定した場合は、全ての syslog を収集します。

世代数	取得する世代
0	全世代
1	カレント
2	カレント + 世代 1
3	カレント + 世代 1～2
:	
x	カレント + 世代 1～(x - 1)

2.7.3 ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ファイル名は、「サーバ名-log.tar.gz」で保存されます。
- ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tar コマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc
Collect Log サーバ名: Success
# ls /opt/nec/clusterpro/tmp
サーバ名-log.tar.gz
```

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ /home/log 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o /home/log
Collect Log サーバ名: Success
# ls /home/log
サーバ名-log.tar.gz
```

2.7.4 異常発生時の情報採取

以下の異常発生時に、障害解析のための情報を採取します。

- 構成するサーバデーモンが、シグナルの割り込みによる終了 (core dump)、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合
- グループリソースの活性異常、非活性異常が発生した場合
- モニタリソースの監視異常が発生した場合

採取する情報は以下です。

- 情報
 - CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
 - CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
 - 構成情報ファイル
 - CLUSTERPRO モジュールの core ファイル
- OS 情報 (/proc/*)
 - /proc/devices
 - /proc/partitions
 - /proc/mdstat
 - /proc/modules
 - /proc/mounts
 - /proc/meminfo
 - /proc/net/bond*
- コマンド実行による情報
 - systemctl -a の結果
 - ps の結果
 - top の結果
 - ipcs の結果
 - netstat -in の結果
 - netstat -apn の結果

- netstat -gn の結果
- netstat -rn の結果
- ifconfig の結果
- ip addr の結果
- ip -s l の結果
- df の結果
- raw -qa の結果
- journalctl -e の結果

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

2.8 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

2.8.1 構成情報を反映する (clpcfctrl --push)

構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

```
clpcfctrl --push [-p portnumber] [-x directory] [--nocheck]
```

説明

Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに反映します。

パラメータ

--push

反映時に指定します。

省略できません。

-p portnumber

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

-x directory

指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。

--nocheck

変更を反映させるために必要な操作のチェックを行わずに配信します。配信した構成情報を反映させるためには必要に応じた操作を手動で実行する必要があります。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

Cluster WebUI でエクスポートしたクラスタ構成情報ファイルを、clpcfctrl --push コマンドでクラスタサーバへ配信するには以下の手順に従ってください。

1. Cluster WebUI を起動し、[設定モード] に切り替えます。
2. 必要に応じて、Cluster WebUI からクラスタ構成を変更します。
3. Cluster WebUI から、[設定のエクスポート] を選択し、任意のフォルダへクラスタ構成情報ファイル (zip 形式) を保存します。
4. Cluster WebUI のエクスポートしたクラスタ構成情報ファイル (zip 形式) を、クラスタサーバーから参照可能な任意のフォルダに展開します。
5. クラスタ内のいずれかのクラスタサーバーのコマンドプロンプトから、`clpcfctrl --push` を実行します。

注意事項

本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

クラスタから一部サーバを削除した構成情報をアップロードする際は、削除するサーバの CLUSTERPRO サーバをアンインストールしてください。

`--nocheck` オプションは保守手順などの特別な用途においてのみ使用します。通常の操作では使用しないでください。

実行例

例 1: Linux 上で Cluster WebUI を使用してファイルシステム上に保存した構成情報を配信する場合

```
# clpcfctrl --push -x /mnt/config
file delivery to server 127.0.0.1 success.
The upload is completed successfully.(cfmgr:0)
Command succeeded.(code:0)
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root ユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。 <code>--push</code> を指定しているか確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data.	-h で指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名または IP アドレスが正しいか確認してください。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to get the list of group.	グループ一覧の取得に失敗しました。
Failed to get the list of resource.	リソース一覧の取得に失敗しました。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsrv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
This is not a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source file does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source file is a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source directory does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source file is not a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Command error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to run the command.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to open the file.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
Failed to read the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to write the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, shutdown and reboot the cluster.	アップロードは成功しました。変更を反映するためにサーバシャットダウン、再起動を実行してください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the Mirror Agent.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためには MirrorAgent(clusterpro_md) を停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the resources to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためには変更を加えたリソースを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the groups to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドする必要があります。アップロードするためには変更を加えたグループを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, suspend the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドしてください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the Alert Sync service. To apply the changes you made, restart the WebManager service.	アップロードは成功しました。 構成情報を反映させるために AlertSync サービス (clusterpro_alertsync) を再起動してください。 構成情報を反映させるために WebManager サービス (clusterpro_webmgr) を再起動してください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the Information Base service.	アップロードは成功しました。 クラスタ構成情報を反映させるために Information Base サービス (clusterpro_ib) を再起動 してください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the API service.	アップロードは成功しました。 クラスタ構成情報を反映させるために API サービスを再起動 してください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the Node Manager service.	アップロードは成功しました。 クラスタ構成情報を反映させるために Node Manager サービスを再起動 してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully. The upload was stopped. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	アップロードは成功しました。 アップロードは停止しました。構成情報の配信に失敗しました。他のサーバの起動状態を確認し、コマンドを再実行してください。

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The upload was stopped. There is one or more servers that cannot be connected to. To apply cluster configuration information forcibly, run the command again with "--force" option.	アップロードは停止しました。接続できないサーバが存在します。構成情報を強制的にアップロードするためには--force オプションを指定してコマンドを再実行してください。

2.8.2 構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

構成情報をバックアップします。

コマンドライン

```
clpcfctrl --pull -l|-w [-p portnumber] [-x directory]
```

説明

Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。

パラメータ

--pull

バックアップ時に指定します。

省略できません。

-l

Linux 上の Cluster WebUI で使用する構成情報としてバックアップする場合に指定します。

-w と同時に指定することはできません。

-w

Windows 上の Cluster WebUI で使用する構成情報としてバックアップする場合に指定します。

-l と同時に指定することはできません。

-p portnumber

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

-x directory

指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。

-l または -w と共に使用します。

-l を指定した場合は、Linux 上の Cluster WebUI で読み込むことができる構成情報としてバックアップします。

-w を指定した場合は、Windows 上の Cluster WebUI で読み込むことができる構成情報として保存します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

clpcfctrl --pull コマンドで取得したクラスタ構成情報ファイルを、Cluster WebUI でクラスタサーバーへ配信するには以下の手順に従ってください。

1. clpcfctrl --pull コマンドを実行し、任意のフォルダへクラスタ構成情報ファイルを保存します。
2. 1. の clp.conf と scripts を選択し、zip 形式で圧縮したファイルを作成します (ファイル名は任意)。
3. Cluster WebUI の設定モードから [設定のインポート] をクリックし、保存したファイル (zip 形式) を読み込みます。
4. 必要に応じて、Cluster WebUI からクラスタ構成を変更し、[設定の反映] をクリックする。

注意事項

本コマンドは root 権限を持つユーザで実行してください。

実行例

例 1: Linux 上の Cluster WebUI で読み込むための構成情報を指定ディレクトリにバックアップする場合

```
# clpcfctrl --pull -l -x /mnt/config
```

```
Command succeeded.(code:0)
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root ユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
	--pull を指定しているか確認してください。
Invalid mode.	
Check if --push or --pull option is specified.	
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the configuration file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Reinstall the RPM.	
Failed to load the cctrl.pol file.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Reinstall the RPM.	

次のページに続く

表 2.23 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsrv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get configuration data. Check if the other server is active.	構成情報の取得に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPRO サーバ RPM を再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.23 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
This is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Command error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to run the command.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.23 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to open the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to read the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to write the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Check if memory or OS resources are sufficient.	

2.9 タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)

現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

コマンドライン

```
clptoratio -r ratio -t time
```

```
clptoratio -i
```

```
clptoratio -s
```

説明

以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- ハートビートリソース
- アラート同期サービス
- WebManager サービス

現在のタイムアウト倍率を表示します。

パラメータ

-r ratio

タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は 10000 倍です。

「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。

-t time

延長期間を指定します。

分 m、時間 h、日 d が指定できます。最大延長期間は 30 日です。

例) 2m、3h、4d

-i

変更したタイムアウト倍率を元に戻します。

-s

現在のタイムアウト倍率を参照します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

サーバシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。サーバがシャットダウンされていなければ、設定したタイムアウト倍率、延長期間は保たれます。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

ハートビートタイムアウト

```
# clpstat --cl --detail
```

モニタリソースタイムアウト

```
# clpstat --mon モニタリソース名 --detail
```

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

サーバの CLUSTERPRO デーモンが起動した状態で実行してください。

タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。

延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。

実行例

例 1: タイムアウト倍率を 3 日間 2 倍にする場合

```
# clptoratio -r 2 -t 3d
```

例 2: タイムアウト倍率を元に戻す場合

```
# clptoratio -i
```

例 3: 現在のタイムアウト倍率を参照する場合

```
# clptoratio -s
present toratio : 2
```

現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で倍率を指定してください。
Set the correct extension period. Ex) 2m, 3h, 4d	正しい延長期間の設定をしてください。 最大延長期間を超えない範囲で延長期間を設定してください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster daemon is active.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster daemon is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO デーモンが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。 クラスタ内のサーバの状態を確認してください。 クラスタ内の全てのサーバが起動した状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.10 ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

コマンドライン

```
clplogcf -t type -l level -s size
```

説明

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。

現在の設定値を表示します。

パラメータ

-t type

設定を変更するモジュールタイプを指定します。

指定可能なタイプには、オプション指定なしで実行した際に出力される情報 (TYPE 列) を参照してください。

-l level

ログレベルを指定します。

指定可能なログレベルは以下のいずれかです。

1、2、4、8、16、32

数値が大きいほど詳細なログが出力されます。

-s size

ログを出力するファイルのサイズを指定します。

単位は byte です。

なし

現在設定されている全情報を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 4 つのログファイルを使用します。このため-s で指定したサイズの 4 倍のディスク容量が必要です。

注意事項

本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドの実行には CLUSTERPRO イベントサービスが動作している必要があります。

サーバを再起動すると設定は元に戻ります。

実行例

例 1: pm のログレベルを変更する場合

```
# clplogcf -t pm -l 8
```

例 2: pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
TYPE, LEVEL, SIZE
pm, 8, 1000000
```

例 3: 現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
TYPE, LEVEL, SIZE
trnsv, 4, 1000000
xml, 4, 1000000
logcf, 4, 1000000
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root ユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change the configuration. Check if clpevent is running.	clpevent が起動されていない可能性があります。
Invalid level	指定したレベルが不正です。
Invalid size	指定したサイズが不正です。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	生成されていないサーバです。

[次のページに続く](#)

表 2.25 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print the configuration. Check if clpevent is running.	clpevent が起動されていない可能性があります。

2.11 ライセンスを管理する (clplcnscl コマンド)

ライセンスの管理を行います。

コマンドライン

```
clplcnscl -i [licensefile...]  
clplcnscl -l [-a]  
clplcnscl -d serialno [-q]  
clplcnscl -d -t [-q]  
clplcnscl -d -a [-q]  
clplcnscl --reregister licensefile...
```

説明

本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

パラメータ

-i [licensefile...]

ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。ライセンスファイルは複数指定することができます。ワイルドカードの指定も可能です。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。

-l [-a]

登録されているライセンスを参照します。表示する項目を以下に示します。

項目名	説明
Serial No	シリアルナンバー (製品版のみ)
User name	ユーザ名 (試用版のみ)
Key	ライセンスキー
Licensed Number of CPU	ライセンス許諾数 (CPU 単位)
Licensed Number of Computers	ライセンス許諾数 (ノード単位)
Start date	有効期間開始日 ^{*4*}
End date	有効期間終了日 ^{p. 69, *4*}
Status	ライセンスの状態

^{*4} 期限付きライセンスの場合に表示します。

^{*5} 試用版ライセンスの場合に表示します。

状態	説明
valid	有効
invalid	無効
unknown	不明
inactive	有効期間開始前 ^{*4p. 69, *5}
expired	有効期間終了後 ^{p. 69, *4p. 69, *5}

-a オプションを指定しない場合は、ライセンスの状態が invalid, unknown, expired であるライセンスは表示しません。

-a オプションを指定した場合は、ライセンスの状態に関わらず、全てのライセンスを表示します。

-d <param>

param

serialno

指定したシリアルナンバーのライセンスを削除します。

-t

登録されている全ての試用版ライセンスを削除します。

-a

登録されている全てのライセンスを削除します。

-q

ライセンスを削除時の確認メッセージを表示せずに削除します。-d オプションと一緒に指定してください。

--reregister licensefile...

期限付きライセンスを再登録します。通常、このオプションでコマンドを実行する必要はありません。

戻り値

0	正常終了
1	キャンセル
3	初期化エラー
5	オプション不正
8	その他内部エラー

実行例

• 登録

– 対話形式

```
# clplcncsc -i
```

製品版、製品版 (期限付き)

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

シリアルナンバー入力

```
Enter serial number [ Ex. XXXXXXXX0000000 ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX ] ...
```

試用版

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

ユーザ名入力

```
Enter user name [ 1 to 63byte ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key  
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX] ...
```

- ライセンスファイル指定

```
# clplcncsc -i /tmp/cpulcns.key
```

- 参照

```
# clplcncsc -l
```

製品版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >  
  
Seq... 1  
Serial No..... AAAAAAAAA000001  
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567  
Licensed Number of CPU... 2  
Status... valid  
  
Seq... 2  
Serial No..... AAAAAAAAA000002  
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567  
Licensed Number of Computers... 1  
Status... valid
```

製品版 (期限付き)

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >  
  
Seq... 1  
Serial No..... AAAAAAAAA000001  
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567  
Start date..... 2018/01/01  
End date..... 2018/01/31  
Status..... valid  
  
Seq... 2  
Serial No..... AAAAAAAAA000002
```

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
Status..... inactive
```

試用版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <TRIAL> >

Seq... 1
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
User name... NEC
Start date..... 2018/01/01
End date..... 2018/02/28
Status..... valid
```

- 削除

```
# clplcnsd -d AAAAAAAAA000001 -q
```

- 削除

```
# clplcnsd -d -t -q
```

- 削除

```
# clplcnsd -d -a
```

削除確認

```
Are you sure to remove the license? [y/n] ...
```

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

-d オプション利用時に -a オプションを併用した場合、全ての試用版ライセンスおよび製品版ライセンスが削除されます。試用版ライセンスのみ削除する場合は -t オプションを併用してください。製品版ライセンスも含めて削除してしまった場合は製品版ライセンスの再登録をしてください。

ライセンス参照時は、あるライセンスに複数のライセンスが含まれている場合、それぞれ個別に表示されます。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Processed license num (success: %d, error : %d).	処理したライセンス数 (成功: %d, 失敗: %d) 失敗が 0 でない場合は、何らかの理由でライセンス処理が失敗しています。 ライセンス情報が正しいか確認してください。
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。ps コマンドなどで 実行状態を確認してください。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	クラスタ構成情報が不正または、未登録状態が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.28 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to register the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to open the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to remove the license.	ライセンスの削除に失敗しました。パラメータ誤り、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This license is already registered.	このライセンスはすでに登録されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is already activated.	このライセンスはすでに使用されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is unavailable for this product.	このライセンスはこの製品では使用できません。 ライセンスを確認してください。
The maximum number of licenses was reached.	登録可能なライセンスの最大数に達しました。 期限切れのライセンスを削除してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.12 メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

指定したメッセージを syslog, アラートログに登録する、または mail 通報するコマンドです。

コマンドライン

```
clplogcmd -m message [--syslog] [--alert] [--mail] [-i eventID] [-l level]
```

注釈: 通常、サーバの構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。EXEC リソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

説明

EXEC リソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

パラメータ

-m message

出力するメッセージを指定します。省略できません。メッセージの最大サイズは 511 バイトです。(出力先に syslog を指定した場合は 485 バイトです。) 最大サイズ以降のメッセージは表示されません。メッセージには英語、数字、記号^{*6} が使用可能です。

--syslog

--alert

--mail

--trap

syslog、alert、mail、trap のの中から出力先を指定します (複数指定可能です。)

^{*6} メッセージに記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

- ・ "" で囲む必要がある記号

& ' () ~ | ; : * < > , .

(例 "#" をメッセージに指定すると、# が出力されます。)

- ・ \ を前につける必要がある記号

\ ! " & ' () ~ | ; : * < > , .

(例 \ をメッセージに指定すると、\ が出力されます。)

- ・ "" で囲む必要がありかつ \ を前につける必要がある記号

、

(例 "\ " をメッセージに指定すると、` が出力されます。)

- ・ メッセージにスペースを含む場合、"" で囲む必要があります。

- ・ メッセージに % は使用できません。

このパラメータは省略可能です。省略時には syslog と alert が出力先になります。

-i eventID

イベント ID を指定します。イベント ID の最大値は 10000 です。

このパラメータは省略可能です。省略時には eventID に 1 が設定されます。

-l level

出力するアラートのレベルです。

ERR、WARN、INFO のいずれかを指定します。このレベルによって Cluster WebUI でのアラートログのアイコンを指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には level に INFO が設定されます。

詳細はオンラインマニュアルを参照してください。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

出力先に mail を指定する場合、mail コマンドで mail 送信ができる設定を行ってください。

実行例

例 1: メッセージのみ指定する場合（出力先 syslog,alert）

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、syslog、alert にメッセージを出力します。

```
clplogcmd -m test1
```

syslog には、下記のログが出力されます。

```
Sep 1 14:00:00 server1 clusterpro: <type: logcmd><event: 1> test1
```

例 2: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合（出力先 mail）

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、Cluster WebUI のクラスタのプロパティで設定したメールアドレスにメッセージが送信されます。

```
clplogcmd -m test2 --mail -i 100 -l ERR
```

mail の送信先には、下記の内容のメールが送信されます。

```
Message:test2
Type: logcmd
ID: 100
Host: server1
Date: 2018/09/01 14:00:00
```

例 3: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合（出力先 trap）

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、Cluster WebUI のクラスタのプロパティで設定した SNMP トラップ送信先にメッセージが送信されます。

```
clplogcmd -m test3 --trap -i 200 -l ERR
```

SNMP トラップの送信先には、下記の内容の SNMP トラップが送信されます。

Trap OID: clusterEventError

添付データ 1: clusterEventMessage = test3

添付データ 2: clusterEventID = 200

添付データ 3: clusterEventDateTime = 2011/08/01 09:00:00

添付データ 4: clusterEventServerName = server1

添付データ 5: clusterEventModuleName = logcmd

2.13 モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

モニタリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clpmonctrl -s [-m resource_name] [-w wait_time]  
clpmonctrl -r [-m resource_name] [-w wait_time]  
clpmonctrl -c [-m resource_name]  
clpmonctrl -v [-m resource_name]  
clpmonctrl -e -m resource_name  
clpmonctrl -n [-m resource_name]
```

説明

モニタリソースの一時停止/再開を行います。

パラメータ

-s

監視を一時停止します。

-r

監視を再開します。

-c

回復動作の回数カウンタをリセットします。

-v

回復動作の回数カウンタを表示します。

-e

障害検証機能を有効にします。必ず-m オプションでモニタリソース名を指定してください。

-n

障害検証機能を無効にします。-m オプションでモニタリソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象となります。-m オプションを省略した場合は、全モニタリソースが対象となります。

-m *resource_name*

制御するモニタリソースを指定します。

省略可能で、省略時は全てのモニタリソースに対して制御を行います。

-w wait_time

モニタリソース単位で監視制御を待合わせます。(秒)

省略可能で、省略時は 5 秒が設定されます。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	オプション不正
3	初期化エラー
4	構成情報不正
5	モニタリソース未登録
6	指定モニタリソース不正
10	CLUSTERPRO 未起動状態
11	CLUSTERPRO デーモンサスペンド状態
90	監視制御待ちタイムアウト
128	二重起動
255	その他内部エラー

実行例

例 1: 全モニタリソースを一時停止する場合

```
# clpmonctrl -s
```

Command succeeded.

例 2: 全モニタリソースを再開する場合

```
# clpmonctrl -r
```

Command succeeded.

備考

既に一時停止状態にあるモニタリソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にあるモニタリソースに再開を行った場合は、本コマンドはエラー終了し、モニタリソース状態は変更しません。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

モニタリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

clpstat コマンドまたは、Cluster WebUI でモニタリソースの状態が"起動済"または、"一時停止"であることを確認後、実行してください。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-v オプションで表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」の実行回数が表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する：有効
- 最終動作： "何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	モニタリソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information.	指定されたモニタリソースは、登録されていません。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster daemon by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。 ps コマンドなどで CLUSTERPRO デーモンの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster daemon has been suspended. Check activation status of the cluster daemon by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO デーモンは、サスペンド状態です。 ps コマンドなどで CLUSTERPRO デーモンの起動状態を確認してください。
Waiting for synchronization of the cluster... The cluster is waiting for synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタは、同期待ち状態です。 クラスタ同期待ち完了後、再度実行してください。

次のページに続く

表 2.29 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1 is not registered, but continue processing. Check the cluster configuration data.	指定されたモニタリソース中に登録されていないモニタリソースありますが、無視して処理を継続します。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。 %1 : モニタリソース名
Monitor %1 denied control permission, ignored. but continue processing.	指定されたモニタリソース中に制御できないモニタリソースがありますが、無視して処理を継続します。 %1 : モニタリソース名
This command is already run.	コマンドは、既に実行されています。ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
diskw	✓	✓	✓
ipw	✓	✓	✓
miiw	✓	✓	✓
mtw	✓	✓	✓
pidw	✓	✓	✓
volmgrw	✓	✓	✓
userw	✓	✓	n/a
mrw	✓	✓	n/a
genw	✓	✓	✓
oraclew	✓	✓	✓
db2w	✓	✓	✓
psqlw	✓	✓	✓
mysqlw	✓	✓	✓
odbcw	✓	✓	✓
sqlserverw	✓	✓	✓
sambaw	✓	✓	✓
nfsw	✓	✓	✓
httpw	✓	✓	✓
ftpw	✓	✓	✓
smtpw	✓	✓	✓
pop3w	✓	✓	✓
imap4w	✓	✓	✓
tuxw	✓	✓	✓
wlsw	✓	✓	✓
wasw	✓	✓	✓
otxw	✓	✓	✓
jraw	✓	✓	✓
sraw	✓	✓	✓
psrw	✓	✓	✓
psw	✓	✓	✓

2.14 グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

グループリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clprsc -s resource_name [-f] [--apito timeout]
```

```
clprsc -t resource_name [-f] [--apito timeout]
```

説明

グループリソースを起動/停止します。

パラメータ

-s

グループリソースを起動します。

-t

グループリソースを停止します。

-f

グループリソース起動時は、指定したグループリソースが依存する全グループリソースを起動します。

グループリソース停止時は、指定したグループリソースに依存している全グループリソースを停止します。

--apito

グループリソースの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。
1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

実行例

グループリソース構成

```
# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
Cluster : cluster
<server>
    server1      : Online
    lanhb1       : Normal
    lanhb2       : Normal
<group>
    ManagementGroup : Online
        current : server1
    ManagementIP    : Online
    failover1       : Online
        current : server1
        exec1    : Online
<monitor>
    ipw1           : Normal
=====
```

例 1: グループ failover1 のリソース exec1 を停止する場合

```
# clprsc -t exec1
Command succeeded.
```

```
# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
<省略>
<group>
    ManagementGroup : Online
        current : server1
    ManagementIP    : Online
    failover1       : Online
        current : server1
        exec1      : Offline
```

<省略>

例 2: グループ failover1 のリソース exec1 を起動する場合

```
# clprsc -s exec1
Command succeeded.
```

```
# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
<省略>
<group>
```

```

ManagementGroup      : Online
    current : server1
ManagementIP         : Online
failover1            : Online
    current : server1
    exec1      : Online

```

<省略>

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中のため、しばらく待ってから実行してください。

次のページに続く

表 2.31 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループリソースを起動させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループリソースが存在するか確認してください。
The group resource has already been started.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Depended resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済でないため、グループリソースを停止できません。 依存しているグループリソースを停止するか、-f オプションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済でないため、グループリソースを起動できません。 依存しているグループリソースを起動するか、-f オプションを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。
Server is not in a condition to start resource or any critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースを起動しようとしたサーバで「フェイルオーバー先サーバの除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニタの異常が検出されています。

次のページに続く

表 2.31 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.15 クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)

CLUSTERPRO がインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン

```
clprexec --failover {[group_name] | [-r resource_name]} -h IP [-w timeout] [-p port_number] [-o logfile_path]
clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
clprexec --notice {[mrw_name] | [-k category[. keyword]]} -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
clprexec --clear {[mrw_name] | [-k category[. keyword]]} -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
```

説明

指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。

パラメータ

--failover

グループフェイルオーバー要求を行います。group_name にはグループ名を指定してください。

グループ名を省略する場合は、-r オプションによりグループに属するリソース名を指定してください。

--script script_name

スクリプト実行要求を行います。

script_name には、実行するスクリプト（シェルスクリプトや実行可能ファイル等）のファイル名を指定します。

スクリプトは-h で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールディレクトリ配下の work/rexec ディレクトリ配下に作成しておく必要があります。

--notice

CLUSTERPRO サーバへ異常発生通知を行います。

mrw_name にはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、-k オプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ、キーワードを指定してください。

--clear

メッセージ受信モニタリソースのステータスを"異常"から"正常"へ変更する要求を行います。

mrw_name にはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、-k オプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ, キーワードを指定してください。

-h IP Address

処理要求発行先の CLUSTERPRO サーバの IP アドレスを指定してください。

カンマ区切りで複数指定可能、指定可能な IP アドレス数は 32 個です。

※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。

-r resource_name

--failover オプションを指定する場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。

-k category[.keyword]

--notice または--clear オプションを指定する場合、category に外部連携モニタリソースに設定しているカテゴリを指定してください。

外部連携モニタリソースのキーワードを指定する場合は、category のあとにドット区切りで指定してください。

-p port_number

ポート番号を指定します。

port_number に処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。

本オプションを省略した場合、デフォルト 29002 を使用します。

-o logfile_path

logfile_path には、本コマンドの詳細ログを出力するファイル path を指定します。

ファイルにはコマンド 1 回分のログが保存されます。

※ CLUSTERPRO がインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。

-w timeout

コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト 180 秒です。

5～MAXINT まで指定可能です。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

[clprexec] コマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPRO サーバ側で実行させたい異常時動作を設定したメッセージ受信モニタリソースを登録/起動しておく必要がある。

-h オプションで指定する IP アドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。

= CLUSTERPRO X 3.0 以降がインストールされていること

= CLUSTERPRO が起動していること

(--script オプション以外の場合)

= mrw が設定/起動されていること

(--notice, --clear オプションの場合)

[クライアント IP アドレスによる接続制限] が有効の場合、[clprexec] コマンドを実行する装置の IP アドレスを追加しておくこと。

[クライアント IP アドレスによる接続制限] は、『設定ガイド』の「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「WebManager タブ」を参照してください。

実行例

例 1: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して、グループ failover1 のフェイルオーバー要求を発行する場合

```
# clprexec --failover failover1 -h 10.0.0.1 -p 29002
```

例 2: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して、グループリソース (exec1) が属するグループのフェイルオーバー要求を発行する場合

```
# clprexec --failover -r exec1 -h 10.0.0.1
```

例 3: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して、スクリプト (script1.sh) 実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.sh -h 10.0.0.1
```

例 4: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1 設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/ lprexec.log
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3 -w 30 -p /tmp/clprexec/  
↳clprexec.log
```

例 5: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して mrw1 のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrw1 の設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrw1 -h 10.0.0.1
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3
```

備考

clprexec コマンドを実行する環境と、処理要求発行先の環境が異なる OS でも動作可能です。

例: Linux 環境の CLUSTERPRO サーバに対して、Windows 環境上の clprexec コマンドから処理を要求する。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
rexec_ver:%s	-
%s %s : %s succeeded.	-
%s %s : %s will be executed from now.	要求発行先のサーバで処理結果を確認してください。

次のページに続く

表 2.32 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
%s %s : Group Failover did not execute because Group(%s) is offline.	-
%s %s : Group migration did not execute because Group(%s) is offline.	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が完了しているか確認してください。
All servers are busy.Check if this command is already run.	既に本コマンドが実行されている可能性があります。確認してください。
%s %s : This server is not permitted to execute clprexec.	Cluster WebUI 接続制限のクライアント IP アドレス一覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが登録されているか確認してください。
%s %s : Specified monitor resource(%s) does not exist.	コマンドの引数を確認してください。
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を確認してください。

2.16 再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)

再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン

```
clpregctrl --get
clpregctrl -g
clpregctrl --clear -t type -r registry
clpregctrl -c -t type -r registry
```

説明

サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

パラメータ

-g, --get

再起動回数情報を表示します。

-c, --clear

再起動回数を初期化します。

-t *type*

再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプは rc または rm です。

-r *registry*

レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名は haltcount です。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	オプション不正
4	構成情報不正
10～17	内部エラー
20～22	再起動回数情報取得失敗
90	メモリアロケート失敗
91	ワークディレクトリ変更失敗

実行例

再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g
```

```
*****
```

```
-----
```

```
type : rc
```

```
registry : haltcount
```

```
comment : halt count
```

```
kind : int
```

```
value : 0
```

```
default : 0
```

```
-----
```

```
type : rm
```

```
registry : haltcount
```

```
comment : halt count
```

```
kind : int
```

```
value : 3
```

```
default : 0
```

```
*****
```

```
Command succeeded.(code:0)
```

```
#
```

例 1、2 は、再起動回数を初期化します。

例 1: グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
```

```
Command succeeded.(code:0)
```

```
#
```

例 2: モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
```

```
Command succeeded.(code:0)
```

```
#
```

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded. Log in as root.	コマンドは成功しました。 コマンドの実行権がありません。 root 権限を持つユーザで実行してください。
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。 ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.17 プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)

プロセスの健全性を確認します。

コマンドライン

```
clphealthchk [ -t pm | -t rc | -t rm | -t nm | -h]
```

注釈: 本コマンドは、単一サーバ上でプロセスの健全性を確認します。健全性を確認したいサーバ上で実行する必要があります。

説明

単一サーバ上でのプロセスの健全性を確認します。

パラメータ

なし

clppm/clprc/clprm/clpnm の健全性を確認します。

-t <process>

process

pm

clppm の健全性を確認します。

rc

clprc の健全性を確認します。

rm

clprm の健全性を確認します。

nm

clpnm の健全性を確認します。

-h

Usage を出力します。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	初期化エラー
4	オプション不正
10	プロセスストール監視機能未設定
11	クラスタ未起動状態（クラスタ起動待ち合わせ中、 クラスタ停止処理中を含む）
12	クラスタサスペンド状態
100	健全性情報が一定時間更新されていないプロセス が存在する -t オプション指定時は、指定プロセスの健全性 情報が一定時間更新されていない
255	その他内部エラー

実行例

例 1: 健全な場合

```
# clphealthchk
```

```
pm OK
```

```
rc OK
```

```
rm OK
```

```
nm OK
```

例 2: clprc がストールしている場合

```
# clphealthchk
```

```
pm OK
```

```
rc NG
```

```
rm OK
```

```
nm OK
```

```
# clphealthchk -t rc
```

```
rc NG
```

例 3: クラスタが停止している場合

```
# clphealthchk
```

```
The cluster has been stopped
```

備考

クラスタが停止している場合や、サスペンドしている場合にはプロセスは停止しています。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
The function of process stall monitor is disabled.	プロセスストール監視機能が有効ではありません。
The cluster has been stopped.	クラスタは停止状態です。
The cluster has been suspended.	クラスタはサスペンド状態です。
This command is already run.	コマンドは既に実行されています。ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.18 クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)

クラスタ統計情報を表示します。

コマンドライン

```
clpperfc --starttime -g group_name
```

```
clpperfc --stoptime -g group_name
```

```
clpperfc -g [group_name]
```

```
clpperfc -m monitor_name
```

説明

グループの起動、停止時間の中央値 (ミリ秒) を表示します。

モニタリソースの監視処理時間 (ミリ秒) を表示します。

オプション

--starttime -g *group_name*

グループの起動時間の中央値を表示します。

--stoptime -g *group_name*

グループの停止時間の中央値を表示します。

-g [*group_name*]

グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

groupname を省略した場合は、全グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

-m *monitor_name*

直近のモニタリソースの監視処理時間を表示します。

戻り値

0	正常終了
1	コマンドオプション不正
2	ユーザ認証エラー
3	構成情報ロードエラー
4	構成情報ロードエラー
5	初期化エラー
6	内部エラー
7	内部通信初期化エラー
8	内部通信接続エラー
9	内部通信処理エラー
10	対象グループチェックエラー
12	タイムアウトエラー

実行例

グループの起動時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc --starttime -g failover1
```

```
200
```

特定グループの起動、停止時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc -g failover1
```

```
start time    stop time
```

```
failover1      200        150
```

モニタリソースの監視処理時間を表示する場合

```
# clpperfc -m monitor1
```

```
100
```

備考

本コマンドで出力する時間の単位はミリ秒です。

有効なグループの起動時間、停止時間が取得できなかった場合は - が表示されます。

有効なモニタリソースの監視時間が取得できなかった場合は 0 が表示されます。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。

次のページに続く

表 2.35 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Invalid option.	コマンドオプションが不正です。コマンドオプションを確認してください。
Command timeout.	コマンドの実行がタイムアウトしました。
Internal error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.19 クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)

クラスタ構成情報をチェックします。

コマンドライン

```
clpcfchk -o path [-i conf_path]
```

説明

クラスタ構成情報を基に設定値の妥当性を確認します。

オプション

-o path

チェック結果を保存するディレクトリを指定します。

-i conf_path

チェックする構成情報を保存したディレクトリを指定します。

省略した場合は、反映済みの構成情報をチェックします。

戻り値

0	正常終了
0 以外	エラー終了

実行例

反映済みの構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp
```

```
server1 : PASS
```

保存した構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp -i /tmp/config
```

```
server1 : PASS
```

実行結果

本コマンドの結果で表示されるチェック結果（総合結果）は以下になります。

チェック結果（総合結果）	説明
PASS	問題がありません。

[次のページに続く](#)

表 2.36 – 前のページからの続き

チェック結果（総合結果）	説明
FAIL	問題があります。 チェック結果を確認してください。

備考

各サーバの総合結果のみを表示します。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

Cluster WebUI でエクスポートした構成情報をチェックする場合、事前に解凍してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not opened the configuration file. Check if the configuration file exists on the specified path.	指定されたパスが存在しません。正しいパスを指定してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to check validation.	クラスタ構成チェックに失敗しました。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.20 ファイアウォールの規則を追加する (clpfwctrl.sh コマンド)

CLUSTERPRO で使用するサーバのファイアウォールのゾーンに「ルール」の追加、削除を行います。

コマンドライン

```
clpfwctrl.sh --add [--zone=<ZONE>]
```

```
clpfwctrl.sh --remove
```

```
clpfwctrl.sh --help
```

説明

注釈: 本コマンドは サーバのファイアウォールサービスを起動した状態で実行してください。

注釈: 本コマンドは、単一サーバ上での、ファイアウォールのゾーンに「ルール」の追加、削除を行います。

注釈: 本コマンドは CLUSTERPRO インストール直後と構成情報反映直後に実行してください。

注釈: 本コマンドは firewall-cmd、firewall-offline-cmd コマンドが使用できる環境のみ対応しています。

CLUSTERPRO で使用するポート番号にアクセスできるようにするため、ファイアウォールのゾーンに「ルール」を追加します。また、追加した「ルール」を削除します。

本コマンドで設定するポート番号、プロトコルの詳細については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux インストールガイド』 - 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe について」 - 「インストール前のサーバ環境の確認・準備」 - 「ファイアウォールの設定を確認する (必須)」を参照してください。

ファイアウォールのゾーンに CLUSTERPRO で使用する「ルール」を以下の名前で追加します。既に同じルール名が追加されている場合は、一度削除を行った後、追加を行います。ルール名の変更はしないでください。

- ルール名
 - clusterpro

オプション

--add [--zone=<ZONE>]

ファイアウォールの「ルール」を追加します。ゾーン名を指定すると、指定されたゾーンに対して「ルール」を追加します。ゾーン名の指定がない場合は、デフォルトゾーンに対して「ルール」を追加します。

--remove

追加したファイアウォールの「ルール」を削除します。

--help

Usage を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドはアウトバウンドについては追加を行いません。必要であれば別途追加をしてください。

JVM モニタリソースを 1 度でも登録すると、本コマンドは JVM モニタリソースの管理ポート番号を必ず許可します。

本コマンド実行時に、メモリ上に一時的に設定しているファイアウォールの設定については破棄されます。

実行例

デフォルトゾーンに「ルール」を追加する場合

```
# clpfwctrl.sh --add
```

Command succeeded.

実行例

ゾーン「home」に「ルール」を追加する場合

```
# clpfwctrl.sh --add --zone=home
```

Command succeeded.

実行例

設定した「ルール」を削除する場合

```
# clpfwctrl.sh --remove
```

Command succeeded.

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Failed to register rule(CLUSTERPRO). Invalid port.	構成情報に不正なポート番号が設定されています。 構成情報を確認してください。
Failed to register rule(CLUSTERPRO). Invalid zone.	ゾーン名が不正です。ゾーン名を確認してください。
Unsupported environment.	サポート対象外の OS です。
Could not read xmlpath. Check if xmlpath exists on the specified path. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Could not opened the configuration file. Check if the configuration file exists on the specified path. (%1)	構成情報が存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Could not read type. Check if type exists on the policy file. (%1)	ポリシーファイルが存在しているか確認してください。 %1 : xml パス
not exist xmlpath. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Failed to obtain properties. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス

次のページに続く

表 2.38 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Not exist java install path. (%1)	Java インストールパスが存在するか確認してください。 %1 : Java インストールパス
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient. (%1)	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。 %1 : xml パス

2.21 SELinux 用の設定をおこなう (clpselctrl.sh コマンド)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 用の SELinux コンテキストのルールを追加して、SELinux が有効な状態でも CLUSTERPRO X SingleServerSafe が動作するようにします。

コマンドライン

```
clpselctrl.sh --add  
clpselctrl.sh --delete  
clpselctrl.sh --list  
clpselctrl.sh --check  
clpselctrl.sh --help
```

説明

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 用の SELinux コンテキストのルールを追加します。

SELinux が有効な状態で本コマンドを実行しなかった場合、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサービスの起動や、ドライバのロードに、失敗することがあります。

これらを回避するために、CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール直後や、SELinux の設定を Enforcing へ変更する前に、本コマンドを実行してください。

注釈:

- SELinux が Enforcing の状態で CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールする場合は、CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール直後に OS を再起動するよりも前に `clpselctrl.sh --add` を実行してください。
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールした後に SELinux を Enforcing へ変更する場合は、SELinux を Enforcing へ変更する前に `clpselctrl.sh --add` を実行してください。
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアンインストールする場合は、`clpselctrl.sh --add` で設定した情報が不要になりますので、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアンインストールする直前に、`clpselctrl.sh --delete` を実行して削除してください。

注釈:

- `clpselctrl.sh` コマンド使用時の手順に関しては、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux インストールガイド』の「CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールする」 - 「CLUSTERPRO Server のインストール」 - 「SELinux 用の設定」を参照してください。

- CLUSTERPRO アンインストール時の手順に関しては、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux インストールガイド』の「CLUSTERPRO X SingleServerSafe をバージョンアップ/アンインストール/再インストール/アップグレードする」 - 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインストール」 - 「CLUSTERPRO Server のアンインストール」を参照してください。
-

注釈: 過去に CLUSTERPRO X SingleServerSafe のドライバをロードできるようにするために `semodule -i` コマンドを使って `clpka.pp` `clpkhb.pp` のインストールをおこなった場合には、`clpselctrl.sh --add` コマンドを実行することにより、そのインストールした情報が不要になりますので、下記を実行してそれらの情報を削除してください。

```
# semodule -r clpka clpkhb
```

オプション

-a, --add

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 用の SELinux コンテキストのルールを追加します。

-d, --delete

--add オプションで追加した SELinux コンテキストのルールを削除します。

-l, --list

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 用の SELinux コンテキストのルールの一覧を表示します。

-c, --check

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 用の SELinux コンテキストのルールが追加されているかを確認します。

結果は「OK」または「NG」で表示されます。

-h, --help

Usage を表示します。

戻り値

0	成功
0	OK (--check オプションの場合)
1	失敗
1	NG (--check オプションの場合)
2	内部エラー
3	オプション指定誤り
4	grep コマンドエラー
5	コマンドの実行権限がない
6	必要なコマンドがない
その他	その他のエラー

注意事項

本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドは、semanage コマンドと restorecon コマンドを使用します。semanage コマンドや restorecon コマンドがインストールされていない場合には、事前にインストールをおこなってください。

- RHEL 8 系以降の場合

```
# dnf -y install polycoreutils-python-utils
```

- RHEL 7 系の場合

```
# yum -y install polycoreutils-python
```

本コマンドでルールの追加/削除を実行すると `ValueError` が表示されることがありますが、最後に `clpselctrl.sh : Command succeeded.` が表示されていれば問題ありません。

実行例

SELinux コンテキストの設定をおこなう場合

```
# clpselctrl.sh --add
```

```
clpselctrl.sh : Command succeeded.
```

実行例

過去に `semodule -i` で CLUSTERPRO のドライバ用の `clpka.pp` `clpkhb.pp` をインストールしていた場合

```
# clpselctrl.sh --add
```

```

clpselctrl.sh : Please execute 'semodule -r clpka clpkhb' to remove these SELinux
→policy packages.
clpselctrl.sh : Command succeeded.

# semodule -r clpka clpkhb
libsemanage.semanage_direct_remove_key: Removing last clpka module (no other clpka
→module exists at another priority).
libsemanage.semanage_direct_remove_key: Removing last clpkhb module (no other
→clpkhb module exists at another priority).
```

実行例

設定済みの時に、チェックと一覧表示を実行した場合

```

# clpselctrl.sh --check
OK

# clpselctrl.sh --list
/opt/nec/clusterpro/drivers(/.*)?
/opt/nec/clusterpro/etc/init.d/*.
/opt/nec/clusterpro/etc/systemd/*.service
/opt/nec/clusterpro/etc/systemd/*.sh
```

エラーメッセージ

メッセージ	戻り値	原因/対処法
Command succeeded.	0	設定または削除に成功。もしくは既に設定や削除がおこなわれていた。
Command failed.	1	設定または削除に失敗。
OK	0	既に設定済み。(--check オプションの場合)
NG	1	未設定、または、削除済み。(--check オプションの場合)
Internal error.	2	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid option.	3	正しいオプションを指定してください。
grep command failed.	4	grep コマンドでエラーが発生しました。

次のページに続く

表 2.39 – 前のページからの続き

メッセージ	戻り値	原因/対処法
Log in as root.	5	root 権限を持つユーザで実行してください。
'semanage' and 'restorecon' commands are required.	6	semanage コマンドや restorecon コマンドが見つかりません。インストールしてください。
Please execute 'semodule -r clpka clpkhb' to remove these SELinux policy packages.	--	古い設定があります。表示されたコマンドを実行して古い設定を削除してください。

2.22 サービスの自動起動を有効/無効化する (clpsvcctrl コマンド)

CLUSTERPRO で使用するサービスの自動起動を有効または無効に変更します。

コマンドライン

```
clpsvcctrl.sh --enable {-a | base | core | mgr | <service_name>}
clpsvcctrl.sh --disable {-a | base | core | mgr | <service_name>}
clpsvcctrl.sh --list
clpsvcctrl.sh --help
```

説明

CLUSTERPRO で使用するサービスの自動起動を有効または無効に変更します。

オプション

```
--enable {-a | base | core | mgr | <service_name>}
--disable {-a | base | core | mgr | <service_name>}
```

サービスの自動起動を有効または無効に変更します。

-a を指定すると、CLUSTERPRO 全てのサービスの自動起動を有効または無効に変更します。

<service_name> を指定すると、指定したサービスの自動起動を有効または無効に変更します。

base, core, mgr のいずれかを指定すると、オプションに対応したサービスの自動起動を有効または無効に変更します。詳細については以下の「サービス、オプション一覧」を確認してください。

※ ✓ はオプションに対応したサービスが含まれます。n/a はオプションに対応したサービスは含まれません。

サービス名については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Linux 設定ガイド』 - 「補足事項」
- 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサービス一覧」を参照してください。

サービス、オプション一覧

サービス名	-a	base	core	mgr
clusterpro_evt	✓	✓	n/a	n/a
clusterpro_nm	✓	✓	n/a	n/a
clusterpro_trn	✓	✓	n/a	n/a
clusterpro_ib	✓	✓	n/a	n/a
clusterpro_api	✓	n/a	n/a	n/a

次のページに続く

表 2.40 – 前のページからの続き

サービス名	-a	base	core	mgr
clusterpro_md	✓	n/a	✓	n/a
clusterpro	✓	n/a	✓	n/a
clusterpro_webmgr	✓	n/a	n/a	✓
clusterpro_alertsync	✓	n/a	n/a	✓

--list

CLUSTERPRO で使用するサービスの一覧と自動起動の設定を確認します。

--help

Usage を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。

実行例

CLUSTERPRO の全てのサービスの自動起動を有効に変更する場合

```
# clpsvcctrl.sh --enable -a
```

実行例

CLUSTERPRO の core の自動起動を有効に変更する場合

```
# clpsvcctrl.sh --enable core
```

実行例

CLUSTERPRO の全てのサービスの自動起動を無効に変更する場合

```
# clpsvcctrl.sh --disable -a
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。

第 3 章

注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1. *CLUSTERPRO X SingleServerSafe* 運用後

3.1 CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

3.1.1 ドライバロード時のメッセージについて

clpka ドライバを load した際に、以下のメッセージがコンソール、syslog に表示されることがあります。この現象は異常ではありません。

```
kernel: clpka: no version for "struct_module" found: kernel tainted.  
kernel: clpka: module license 'unspecified' taints kernel.
```

3.1.2 ipmi のメッセージについて

ユーザ空間モニタリソースに IPMI を使用する場合、syslog に下記の kernel モジュール警告ログが多数出力されます。

```
modprobe: modprobe: Can't locate module char-major-10-173
```

このログ出力を回避したい場合は、/dev/ipmikcs を rename してください。

3.1.3 回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (EXEC リソース) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、以下のコマンドまたは、Cluster WebUI からのサーバ及びグループへの制御は行わないでください。

- サーバの停止 / サスペンド
- グループの開始 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

3.1.4 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外となります。

3.1.5 ログ収集時のメッセージ

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
```

```
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

```
kernel: Warning: /proc/ide/hd?/settings interface is obsolete, and will be removed soon!
```

3.1.6 systemd 環境でのサービス状態確認について

systemd 環境では systemctl コマンドによるサービスの状態表示と、実際のクラスタの状態とは一致しない場合があります。

クラスタの状態の確認には clpstat コマンド、Cluster WebUI を使用してください。

3.1.7 EXEC リソースで使用するスクリプトファイルについて

EXEC リソースで使用するスクリプトファイルはサーバ上の下記のディレクトリに配置されます。

`/インストールパス/scripts/グループ名/EXEC リソース名/`

構成変更時に下記の変更を行った場合、変更前のスクリプトファイルはサーバ上からは削除されません。

- EXEC リソースを削除した場合や EXEC リソース名を変更した場合
- EXEC リソースが所属するグループを削除した場合やグループ名を変更した場合

変更前のスクリプトファイルが必要ない場合は、削除しても問題ありません。

3.1.8 活性時監視設定のモニタリソースについて

活性時監視設定のモニタリソースの一時停止/再開には下記の制限事項があります。

- モニタリソースの一時停止後、監視対象リソースを停止させた場合モニタリソースは停止状態となります。そのため、監視の再開はできません。
- モニタリソースを一時停止後、監視対象リソースを停止/起動させた場合、監視対象リソースが起動したタイミングで、モニタリソースによる監視が開始されます。

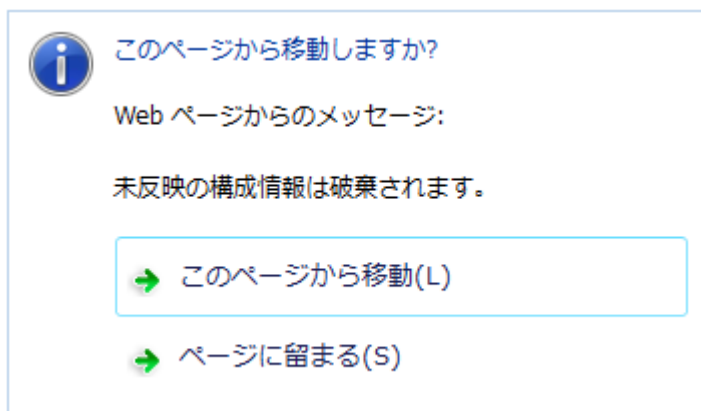
3.1.9 Cluster WebUI について

- 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間が必要な場合があります。
- Proxy サーバを経由する場合は、Cluster WebUI のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- Reverse Proxy サーバを経由する場合、Cluster WebUI は正常に動作しません。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合、起動している全てのブラウザを一旦終了してください。

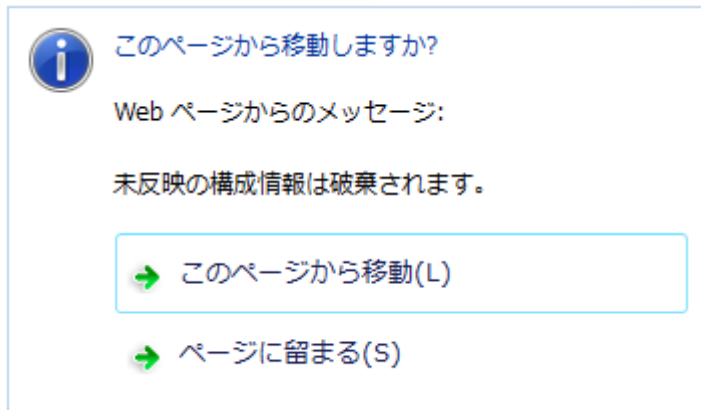
ブラウザ側のキャッシュをクリアして、ブラウザを起動してください。

- 本製品より新しいバージョンで作成されたクラスタ構成情報は、本製品で利用することはできません。
- Web ブラウザを終了すると (ウィンドウフレームの [X] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- Web ブラウザをリロードすると (メニューの [最新の情報に更新] やツールバーの [現在のページを再読み込み] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- 上記以外の Cluster WebUI の注意制限事項についてはオンラインマニュアルを参照してください。

3.1.10 システムモニタリソース、プロセスリソースモニタリソースについて

- 設定内容の変更時にはクラスタサスペンドを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイミングが日付/時刻変更後の最初の一回だけずれてしまいます。以下のようなことが発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。
- システムモニタリソースのディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は 64 台です。

3.1.11 JVM モニタリソースについて

- 監視対象の Java VM を再起動する場合はクラスタサスペンドするか、クラスタ停止を行った後に行ってください。
- 設定内容の変更時にはクラスタサスペンドを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- JVM モニタリソースを登録後に Cluster WebUI の言語 (クラスタプロパティ → 情報タブ → 言語) を変更する場合、JVM モニタリソースを一旦削除し、再度 JVM モニタリソースを登録してください。

3.1.12 HTTP モニタリソースについて

- HTTP モニタリソースでは以下いずれかの OpenSSL の共有ライブラリのシンボリックリンクを利用しています。
 - libssl.so
 - libssl.so.1.1 (OpenSSL 1.1.1 の共有ライブラリ)
 - libssl.so.10 (OpenSSL 1.0 の共有ライブラリ)
 - libssl.so.6 (OpenSSL 0.9 の共有ライブラリ)

OS のディストリビューションやバージョン、およびパッケージのインストール状況によっては、上記のシンボリックリンクが存在しない場合があります。

HTTP モニタリソースでは、上記のシンボリックリンクが見つけれない場合は、以下のようなエラーが発生します。

```
Detected an error in monitoring <Monitor Resource Name>. (1 :Can not found library.↵  
↵(libpath=libssl.so, errno=2))
```

このため、上記のエラーが発生した場合は、/usr/lib または /usr/lib64 配下などに上記のシンボリックリンクが存在しているか確認をお願いします。

また、上記のシンボリックリンクが存在しない場合は、下記のコマンド例のようにシンボリックリンク libssl.so を作成頂きますようお願いします。

コマンド例：

```
cd /usr/lib64 # /usr/lib64 へ移動  
ln -s libssl.so.1.0.1e libssl.so # シンボリックリンクの作成
```

3.1.13 ホスト名の変更手順について

運用を開始した後で、サーバのホスト名を変更したい場合、以下の手順で行ってください。

1. クラスタが正常であることを [clpstat] コマンド、または Cluster WebUI を使用して確認します。
2. 以下のコマンドを実行して、クラスタを停止します。

clpcl -t

3. ホスト名を変更します。
4. ホスト名を変更したサーバ上で [reboot] コマンド等を使用して再起動してください。
5. クラスタが正常であることを [clpstat] コマンド、または Cluster WebUI を使用して確認します。

第 4 章

エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1. *syslog*、アラート、*userlog*、メール通報、*SNMP* トラップメッセージ、*Message Topic*
- 4.2. ドライバの *syslog* メッセージ
- 4.3. グループリソース活性/非活性時の詳細情報
- 4.4. モニタリソース異常時の詳細情報
- 4.5. *JVM* モニタリソースのログ出力メッセージ
- 4.6. クラスタ構成情報チェックの詳細情報

4.1 syslog、アラート、userlog、メール通報、SNMP トラップメッセージ、Message Topic

alert の列に●印のあるメッセージは Cluster WebUI のアラートログに、syslog の列に●印のあるメッセージは OS の syslog に出力されます。

userlog の列に●印のあるメッセージは「ログ収集ツール」を使用して収集したログの log フォルダ配下の "userlog.log.cur" ファイルに出力されます。

Mail Report の列に●印のあるメッセージはアラートサービスのメール通報を設定している場合に通報されます。

SNMP Trap の列に●印のあるメッセージはアラートサービスの SNMP Trap 送信を設定している場合に通報されます。

メール通報、SNMP Trap 送信については、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を参照してください。

Message Topic の列に●印のあるメッセージは Amazon SNS 連携機能を設定している場合に通報されます。

Amazon SNS 連携機能については『設定ガイド』の「その他の設定の詳細」-「クラスタプロパティ」-「クラウドタブ」を参照してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のメッセージは以下の通りです。

注釈: syslog に facility = daemon(0x00000018), identity = "clusterpro" で出力します。以下の表の「イベント分類」が syslog のログレベルに相当します。

下表で使用する記号は以下を表します。

[1]alert, [2]syslog, [3]userlog, [4]Mail Report, [5]SNMP Trap, [6]Message Topic

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sss	エラー	8	Failed to update config file.	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●	●	●			
sss	情報	10	Updated config file successfully.	コンフィグファイルが更新されました。	-			●	●		
sss	エラー	12	Information in config file is invalid.	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。			●	●		
sss	エラー	14	Failed to obtain server name.	サーバ名の取得が失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。			●	●		
sss	情報	16	Server name is updated.	サーバ名が更新されました。	-		●	●	●		
pm	情報	1	Starting the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンが正常に起動されました。	-		●	●	●		
pm	情報	2	Shutting down the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンを停止しています。	-		●	●	●		
pm	情報	3	Shutdown monitoring is started...	シャットダウン監視が開始されました。	-		●	●	●		
pm	エラー	10	The cluster daemon has already started.	CLUSTERPRO デーモンは、既に起動されています。	CLUSTERPRO デーモンの状態を確認してください。		●	●	●		

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
pm	エラー	11	A critical error occurred in the cluster daemon.	CLUSTERPRO デーモンで重大なエラーが発生しました。	実行ユーザが root 権限を持っていないか或いは、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●	●	●
pm	エラー	12	A problem was detected in XML library.	XML ライブラリ内で問題が検出されました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	13	A problem was detected in cluster configuration data.	構成情報で問題が検出されました。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。	●	●	●	●	●	●
pm	エラー	14	No cluster configuration data is found.	構成情報が存在しません。	Cluster WebUI でサーバ構成を作成し、サーバにアップロードしてください。	●	●	●			
pm	エラー	15	No information about this server is found in the cluster configuration data.	自サーバが構成情報に存在しません。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。	●	●	●			
pm	警告	16	The recovery action is configured to change from an OS stop to an OS restart.	回復動作の OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する設定になっています。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
pm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。 nm プロセスが異常終了した場合でも業務影響はありませんが、クラスタ停止操作を行うことができません。回復するには、Cluster WebUI や clpdown コマンドにて OS 再起動を実施してください。	●	●	●	●	●	●
pm	エラー	21	The system will be stopped because the cluster daemon process terminated abnormally.	CLUSTERPRO デーモンのプロセスが異常終了したため、システムを停止します。	グループリソースの非活性失敗が考えられます。グループリソースのメッセージに従って対処を行ってください。	●	●	●			
pm	エラー	22	An error occurred when initializing process %1.(return code:%2)	%1 プロセスの初期化エラーです。	イベントプロセスが起動されていない事が考えられます。	●	●	●	●	●	●
pm	情報	23	The system will be stopped.	システムを停止します。	-	●	●	●			
pm	情報	24	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デーモンを停止します。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベ ント 分類	イベ ント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
pm	情報	25	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	-	●	●	●			
pm	情報	26	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	-	●	●	●			
pm	情報	30	Received a request to stop the system from %1.	%1 からシステム停止要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	31	Received a request to stop the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン停止要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	32	Received a request to reboot the system from %1.	%1 からシステム再起動要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	33	Received a request to restart the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン再起動要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	34	Received a request to resume the cluster daemon from %1.	%1 からサーバリジューム要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	35	Received a request to suspend the cluster daemon from %1.	%1 からサーバサスペンド要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	36	Received a request to panic by sysrq from %1.	%1 から sysrq によるパニック要求を受け取りました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
pm	情報	37	Received a request to reset by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるリセット要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	38	Received a request to panic by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるパニック要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	39	Received a request to reset by BMC from %1.	%1 から BMC によるリセット要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	40	Received a request to power down by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーダウン要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	41	Received a request to power cycle by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーサイクル要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	情報	42	Received a request to send NMI by BMC from %1.	%1 から BMC による NMI 送信要求を受け取りました。	-	●	●	●			
pm	エラー	66	An attempt to panic by sysrq from %1 failed.	%1 からの sysrq によるパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
pm	エラー	67	An attempt to reset by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	68	An attempt to panic by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	69	An attempt to reset by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるリセットをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	70	An attempt to power down by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	71	An attempt to power cycle by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
pm	エラー	72	An attempt to send NMI by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
nm	情報	1	Server %1 has started.	サーバ %1 が起動しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
nm	情報	2	Server %1 has been stopped.	サーバ %1 が停止しました。	-	●	●	●	●	●	●
nm	情報	3	Resource %1 of server %2 has started.	サーバ %2 の %1 リソースが起動しました。	-	●	●	●			
nm	情報	4	Resource %1 of server %2 has stopped.	サーバ %2 の %1 リソースが停止しました。	-	●	●	●			
nm	情報	5	Waiting for all servers to start.	サーバの起動待ち合わせを開始しました。	-	●	●	●			
nm	情報	6	All servers have started.	サーバが起動しました。	-	●	●	●			
nm	情報	7	Timeout occurred during the wait for startup of all servers.	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。	-	●	●	●			
nm	エラー	8	Timeout occurred during the wait for startup of all servers. (Cannot communicate with some servers.)	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。(いくつかのサーバとの内部通信ができない状態です。)	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●			
nm	情報	9	Waiting for startup of all servers has been canceled.	サーバの起動待ち合わせをキャンセルしました。	-	●	●				
nm	エラー	10	Status of resource %1 of server %2 is unknown.	サーバ %2 の %1 リソースの状態が不明です。	%1 リソースに関するケーブルまたは、ネットワークの設定が正しいか確認してください。	●	●		●	●	●

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
nm	警告	11	NP resolution process at the cluster startup is disabled.	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	●	●	●			
nm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●	●	●
nm	情報	21	The system will be stopped.	システムを停止します。	-	●	●	●			
nm	情報	22	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デーモンを停止します。	-	●	●				
nm	情報	23	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	-	●	●	●			
nm	情報	24	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
nm	エラー	30	Network partition was detected. Shut down the server %1 to protect data.	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %1 をシャットダウンします。	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。	●	●	●			
nm	エラー	31	An error occurred while confirming the network partition. Shut down the server %1.	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %1 をシャットダウンします。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
nm	エラー	32	Shut down the server %1. (reason:%2)	サーバ %1 をシャットダウンします。(理由: %2)	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。	●	●	●			
nm	エラー	33	Cluster service will be stopped. (reason:%1)	サービスを停止します。(理由: %1)	理由に示す要因を取り除いてください。	●	●	●			
nm	エラー	34	The combination of the network partition resources is invalid. (server name:%1)	ネットワークパーティション解決リソースの組み合わせが不正です。(サーバ名: %1)	構成情報を確認してください。	●	●				
nm	エラー	35	Failed to start the resource %1. Server name:%2	リソース %1 の起動に失敗しました。(サーバ名: %2)	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
nm	情報	36	The network partition %1 of the server %2 has been recovered to the normal status.	サーバ %2 のネットワークパーティション %1 が正常状態に復帰しました。	-	●	●				
nm	エラー	37	The network partition %1 of the server %2 has an error.	サーバ %2 のネットワークパーティション %1 が異常です。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				
nm	エラー	38	The resource %1 of the server %2 is unknown.	サーバ %2 のリソース %1 が不明です。	構成情報を確認してください。	●	●				
nm	情報	39	The server %1 canceled the pending failover.	サーバ %1 がフェイルオーバーをキャンセルしました。	-	●	●	●			
nm	エラー	80	Cannot communicate with server %1.	サーバ %1 との内部通信ができない状態です。	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●			
nm	情報	81	Recovered from internal communication error with server %1.	サーバ %1 との内部通信が異常状態から復帰しました。	-	●	●	●			
rc	情報	10	Activating group %1 has started.	%1 グループの起動処理を開始しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	11	Activating group %1 has completed.	%1 グループの起動処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	12	Activating group %1 has failed.	%1 グループの起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	15	Waiting for group %1 to start has started. (Dependent Group: %2)	グループの起動待ち合わせ処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	16	Waiting for group %1 to start has been completed.	グループの起動待ち合わせ処理が正常に完了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	17	Group start has been canceled because waiting for group %1 to start has timed out.	グループの起動待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しました。	起動待ち合わせ先グループの状態を確認してください。 グループが起動されていない場合は、そのグループを起動後に再度グループ操作を実行してください。	●	●	●			
rc	警告	18	Waiting for group %1 to start has timed out. However, group start continues.	グループの起動待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しましたが、グループの起動を継続します。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	20	Stopping group %1 has started.	%1 グループの停止処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	21	Stopping group %1 has completed.	%1 グループの停止処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	22	Stopping group %1 has failed.	%1 グループの停止処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	警告	23	Server %1 is not in a condition to start group %2.	サーバ %1 はグループ %2 を起動できる状態ではありません。	すでに完全排他グループが起動しているサーバでは完全排他グループを起動することはできません。完全排他グループを停止して再度実行してください。	●	●				
rc	情報	25	Waiting for group %1 to stop has started. (Dependent Group: %2)	グループの停止待ち合わせ処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	26	Waiting for group %1 to stop has been completed.	依存しているグループの停止待ち合わせ処理が正常に完了しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	27	Group stop has been canceled because waiting for group %1 to stop has timed out.	グループの停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しました。	停止待ち合わせ先グループの状態を確認してください。 グループが停止されていない場合は、そのグループを停止後に再度グループ操作を実行してください。	●	●	●			
rc	警告	28	Waiting for group %1 to stop has timed out. However, group stop continues.	停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しましたが、グループの停止を続けます。	-	●	●	●			
rc	情報	30	Activating %1 resource has started.	%1 リソースの起動処理を開始しました。	-		●	●			
rc	情報	31	Activating %1 resource has completed.	%1 リソースの起動処理が終了しました。	-		●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	32	Activating resource failed.(%2 : %3)	%1 resource has started. %1 リソースの起動処理が失敗しました。	「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。 起動処理でストールが発生した場合には Activating %1 resource has failed.(99 : command is timeout) が出力されます。	●	●	●	●	●	●
rc	情報	40	Stopping %1 resource has started.	%1 リソースの停止処理を開始しました。	-	●	●				
rc	情報	41	Stopping %1 resource has completed.	%1 リソースの停止処理が終了しました。	-	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	42	Stopping resource %1 has failed.(%2 : %3)	%1 リソースの停止処理が失敗しました。	「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。 停止処理でストールが発生した場合には Stopping %1 resource has failed.(99 : command is timeout) が出力されます。	●	●	●	●	●	●
rc	情報	43	Waiting for resource %1 to stop has canceled. However, resource stop continues.	リソース %1 の停止待ち合わせ処理をキャンセルしましたが、リソースの停止を継続します。	-		●	●			
rc	情報	50	Moving group %1 has started.	%1 グループの移動処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	51	Moving group %1 has completed.	%1 グループの移動処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	52	Moving group %1 has failed.	%1 グループの移動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	60	Failover group %1 has started.	%1 グループのフェイルオーバー処理を開始しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	61	Failover group %1 has completed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	62	Failover group %1 has failed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	警告	63	Server %1 is not in a condition to move group %2.	サーバ %1 はグループ %2 を移動できる状態ではありません。	移動先サーバの状態を確認してください。 移動先サーバが存在しない場合には %1 にサーバ名は出力されません。	●	●				
rc	情報	64	Server %1 has been set as the destination for the group %2 (reason: %3).	サーバ %1 をグループ %2 のフェイルオーバー先に設定しました。(理由: %3)	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	65	There is no appropriate destination for the group %1 (reason: %2).	グループ %1 の適切なフェイルオーバー先がありません。(理由: %2)	フェイルオーバー可能なサーバがありません。 サーバが停止しているか、フェイルオーバーができないモニタリソース異常が発生しています。 サーバを起動するか、モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●	●			
rc	警告	66	Server %1 is not in a condition to start group %2 (reason: %3).	サーバ %1 はグループ %2 を起動できる状態ではありません。(理由: %2)	グループの起動ができないモニタリソース異常が発生しています。 モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	67	Server %1 in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	同じサーバグループ %2 内のサーバ %1 をグループ %3 のフェイルオーバー先に設定しました。	-	●	●	●			
rc	情報	68	Server %1 not in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	サーバグループ %2 とは別のサーバグループ内のサーバ %1 をグループ %3 のフェイルオーバー先に設定しました。	-	●	●	●			
rc	警告	69	Can not failover the group %1 because there is no appropriate destination in the same server group %2.	サーバグループ %2 内にグループ %1 をフェイルオーバーできるサーバがありません。	サーバグループ内のサーバを起動してからグループを起動するか、別のサーバグループ内のサーバでグループを起動してください。	●	●	●			
rc	情報	70	Restarting group %1 has started.	%1 グループの再起動処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	71	Restarting group %1 has completed.	%1 グループの再起動処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	72	Restarting group %1 has failed.	%1 グループの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	74	Failback group %1 has started.	%1 グループのフェイルバック処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	75	Failback group %1 has completed.	%1 グループのフェイルバック処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	情報	76	Failback group %1 has failed.	%1 グループのフェイルバック処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	80	Restarting resource %1 has started.	%1 リソースの再起動処理を開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	81	Restarting resource %1 has completed.	%1 リソースの再起動処理が終了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	82	Restarting resource %1 has failed.	%1 リソースの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	83	Starting a single resource %1.	リソース %1 を単体起動しています。	-	●	●	●			
rc	情報	84	A single resource %1 has been started.	リソース %1 の単体起動が完了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	85	Failed to start a single resource %1.	リソース %1 の単体起動に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	警告	86	Server %1 is not in a condition to start a single resource %2.	サーバ %1 はリソース %2 を単体起動できる状態ではありません。	サーバおよびグループの状態を確認してください。	●	●				
rc	情報	87	Stopping a single resource %1.	リソース %1 を単体停止しています。	-	●	●	●			
rc	情報	88	A single resource %1 has been stopped.	リソース %1 の単体停止が完了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	89	Failed to stop a single resource %1.	リソース %1 の単体停止に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	90	All the servers in the cluster were shut down.	サーバを停止しました。	-	●	●	●			
rc	情報	91	The server was shut down.	サーバを停止しました。	-	●	●	●			
rc	警告	100	Restart count exceeded the maximum value %1. Final action of resource %2 will not be executed.	再起動回数が最大値 %1 を超えました。リソース %2 の最終アクションは実行されません。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。再起動回数については『設定ガイド』 - 「監視動作の詳細」 - 「再起動回数制限について」を参照してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	160	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 started.	リソース (%1) の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	161	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 completed.	リソース (%1) の非活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	-	●	●	●			
rc	情報	162	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 started.	リソース (%1) の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	-	●	●	●			
rc	情報	163	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 completed.	リソース (%1) の非活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	180	Script before final action upon activation failure in resource %1 failed.	リソース (%1) の活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●			
rc	エラー	181	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 failed.	リソース (%1) の非活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	同上	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	200	Resource(%1) will be reactivated since activating resource(%2) failed.	リソース %2 の活性処理失敗によりリソース %1 を再活性します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	201	Group(%1) will be moved to server(%2) since activating resource(%3) failed.	リソース %3 の活性処理失敗によりグループ %1 をサーバ %2 に移動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	202	Group(%1) will be stopped since activating resource(%2) failed.	リソース %2 の活性処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	203	Cluster daemon will be stopped since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により CLUSTER-PRO サーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	204	System will be halted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により OS をシャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	205	System will be rebooted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により OS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	206	Activating group(%1) will be continued since failover process failed.	フェイルオーバーに失敗したため、グループ %1 の起動処理を継続します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	207	System will be halted emergently since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性処理失敗により OS を緊急シャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	220	Resource(%1) will be stopping again since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性処理失敗によりリソース %1 の非活性をリトライします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	222	Group(%1) will be stopped since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	223	Cluster daemon will be stopped since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗によりサーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	224	System will be halted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗により OS をシャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	225	System will be rebooted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗により OS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	227	System will be halted emergently since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性処理失敗により OS を緊急シャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	240	System panic by sysrq is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	241	System reset by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	242	System panic by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	243	System reset by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	244	System power down by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	245	System power cycle by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	246	NMI send by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	エラー	260	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	261	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	262	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	263	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	264	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	265	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	266	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース %1 の活性異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	280	System panic by sysrq is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	281	System reset by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	282	System panic by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	283	System reset by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	284	System power down by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	285	System power cycle by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	286	Sending NMI by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
rc	エラー	300	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	301	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	302	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	エラー	303	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	304	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	305	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	306	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース %1 の非活性異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	340	Group start has been canceled because waiting for group %1 to start has failed.	グループの起動待ち合わせ処理でエラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	情報	400	The status of the regular check for a forced stop returned to normal.	強制停止の定期チェックの状態が正常に復帰しました。	-	●	●	●			
rc	エラー	401	The regular check for a forced stop detected an abnormality.	強制停止の定期チェックが異常を検出しました。	強制停止機能が正しく動作できない状態になっている可能性があります。異常の原因を確認してください。	●	●	●			
rc	エラー	402	The request for forcibly stopping the server has been timed out.	強制停止のサーバ停止要求がタイムアウトしました。	停止要求がタイムアウトした原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	403	The request for forcibly stopping the server will be retried.	強制停止のサーバ停止要求をリトライします。	-	●	●	●			
rc	エラー	404	The check of forcibly stopping the server has been timed out.	強制停止のサーバ停止確認がタイムアウトしました。	停止確認がタイムアウトした原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●			
rc	情報	405	The check of forcibly stopping the server will be retried.	強制停止のサーバ停止確認をリトライします。	-	●	●	●			
rc	警告	441	Waiting for group %1 to stop has failed. However, group stop continues.	グループの停止待ち合わせ処理でエラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	警告	500	Since there is no other normally running server, the final action for an activation error of group resource %1 was suppressed.	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の活性化異常の最終動作を抑制しました。	-	●	●	●			
rc	警告	501	Since there is no other normally running server, the final action for a deactivation error of group resource %1 was suppressed.	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の非活性化異常の最終動作を抑制しました。	-	●	●	●			
rc	警告	510	Cluster action is disabled.	クラスタ動作が無効化されています。	-	●	●	●			
rc	警告	511	Ignored the automatic start of groups because automatic group startup is disabled.	グループの自動起動が無効になっているため、グループの自動起動を抑制しました。	-	●	●	●			
rc	警告	512	Ignored the recovery action in resource activation because recovery action caused by group resource activation error is disabled.	グループリソース活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作を抑制しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rc	警告	513	Ignored the recovery action in resource deactivation because recovery action caused by group resource deactivation error is disabled.	グループリソース非活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作を抑制しました。	-	●	●	●			
rc	情報	514	Cluster action is set disabled.	クラスタ動作を無効にしました。	-	●	●	●			
rc	情報	515	Cluster action is set enabled.	クラスタ動作を有効にしました。	-	●	●	●			
rc	警告	516	Ignored the group failover because failover for a server failure is disabled.	サーバダウン時のフェイルオーバーが無効になっているため、グループのフェイルオーバーを抑制しました。	-	●	●	●			
rm	情報	1	Monitoring %1 has started.	%1 の監視を開始しました。	-	●	●	●			
rm	情報	2	Monitoring %1 has stopped.	%1 の監視を停止しました。	-	●	●	●			
rm	情報	3	%1 is not monitored by this server.	%1 の監視は、当サーバでは行いません。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	警告	4	Warn monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視を警告します。	「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。 モニタリソースが監視準備中の場合、() 内は以下のメッセージが設定されることがあります。 このメッセージに対する対処は必要ありません。 (100 : not ready for monitoring.)	●	●	●			
rm	警告	5	The maximum number of monitor resources has been exceeded. (registered resource is %1)	最大モニタリソース数を超過しています。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。	●	●	●			
rm	警告	6	Monitor configuration of %1 is invalid. (%2 : %3)	%1 のモニタ構成が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。	●	●	●			
rm	エラー	7	Failed to start monitoring %1.	%1 の監視の開始に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●	●	●	●

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	エラー	8	Failed to stop monitoring %1.	%1 の監視の停止に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	エラー	9	Detected an error in monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視で異常を検出しました。	「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。 監視タイムアウトを検出した場合、() 内は以下のメッセージが設定されます。 (99 : Monitor was timeout.) 擬似障害発生中の場合、() 内は以下のメッセージが設定されます。この場合の対処は必要ありません。 (201: Monitor failed for failure verification.) モニタリソースから一定時間応答がなかった場合、() 内は以下のメッセージが設定されます。 (202: couldn't receive reply from monitor resource in time.)	●	●	●	●	●	●

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	情報	10	%1 is not monitored.	%1 を監視していません。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	12	Recovery target %1 has stopped because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	13	Recovery target %1 has restarted because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	14	Recovery target %1 failed over because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	15	Stopping the cluster has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、サーバの停止が要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	16	Stopping the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの停止が要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	17	Rebooting the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm / mm	エラー	18	Attempted to stop the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を停止しようとしたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	●			
rm / mm	エラー	19	Attempted to restart the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を再起動しましたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	●			
rm / mm	エラー	20	Attempted to fail over %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 をフェイルオーバーしようとしたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	●			
rm / mm	エラー	21	Attempted to stop the cluster due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりサーバを停止しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm / mm	エラー	22	Attempted to stop the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを停止しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm / mm	エラー	23	Attempted to reboot the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを再起動しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	エラー	24	The group of %1 resource is unknown.	%1 リソースが所属するグループが不明です。	構成情報が不整合である可能性があります。確認してください。	●	●	●			
rm / mm	警告	25	Recovery will not be executed since the recovery target %1 is not active.	回復対象 %1 が非活性のため回復動作を行いません。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	26	%1 status changed from error to normal.	%1 の監視が異常から正常に復帰しました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	27	%1 status changed from error or normal to unknown.	%1 の監視が異常または、正常から不明になりました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm	エラー	28	Initialization error of monitor process. (%1 : %2)	モニタプロセスの初期化エラーです。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm	情報	29	Monitoring %1 was suspended.	%1 の監視を一時停止しました。	-	●	●	●			
rm	情報	30	Monitoring %1 was resumed.	%1 の監視を再開しました。	-	●	●	●			
rm	情報	31	All monitors were suspended.	全ての監視を一時停止しました。	-	●	●	●			
rm	情報	32	All monitors were resumed.	全ての監視を再開しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm / mm	情報	35	System panic by sysrq has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	36	Attempted to panic system by sysrq due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	37	System reset by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	38	Attempted to reset system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	39	System panic by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm / mm	エラー	40	Attempted to panic system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたましたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	41	System reset by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのリセットが要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	42	Attempted to reset system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたましたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	43	System power down by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	44	Attempted to power down system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたましたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm / mm	情報	45	System power cycle by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	46	Attempted to power cycle system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	47	NMI send by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムの NMI が要求されました。	-	●	●	●			
rm / mm	エラー	48	Attempted to send NMI by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムの NMI をしようとしたが、失敗しました。	BMC の設定を確認してください。	●	●	●			
rm	情報	49	%1 status changed from warning to normal.	%1 の監視が警告から正常に復帰しました。	-	●	●	●			
rm	エラー	57	Stopping the cluster is required since license (%1) is invalid.	ライセンス不正により、サーバ停止が要求されました。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●	●	●	●

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	エラー	58	Stopping the cluster due to invalid license (%1) failed.	ライセンス不正によるサーバ停止が成功しませんでした。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			
rm	警告	71	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2 actual-time=%3 delay warning rate=%4)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (tick count) です。遅延検出時の実測値が %3 (tick count) となり、遅延警告割合 %4 (%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要です。	●	●	●			
rm	警告	72	%1 could not Monitoring.	%1 は監視処理が実行できませんでした。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm / mm	情報	81	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 started.	%2 モニタリソースの %1 前スクリプトを開始しました。	-	●	●	●			
rm / mm	情報	82	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 completed.	%2 モニタリソースの %1 前スクリプトが完了しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm / mm	エラー	83	Script before %1 upon failure in monitor resource %2 failed.	%2 モニタリソースの %1 前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●			
rm	警告	100	Restart count exceeded the maximum of %1. Final action of monitoring %2 will not be executed.	再起動回数が最大値 %1 を超えたので、%2 の最終動作は実行されませんでした。	再起動回数については『設定ガイド』 - 「監視動作の詳細」 - 「再起動回数制限について」を参照してください。	●	●	●			
rm	警告	121	The virtual machine (%1) has been started by an external operation.	%1 リソースが管理している仮想マシンが外部操作により起動されました。	-	●	●	●			
rm	情報	130	The collecting of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been started (timeout=%2).	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは %2 秒です。	-	●	●	●			
rm	情報	131	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been completed.	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	-	●	●	●			
rm	警告	132	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been failed (%2).	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	情報	140	Process %1 has started.	プロセス %1 を起動しました。	-						
rm	警告	141	Process %1 has restarted.	プロセス %1 を再起動しました。	-						
rm	警告	142	Process %1 does not exist.	プロセス %1 が消滅しました。	-						
rm	エラー	143	Process %1 was restarted %2 times, but terminated abnormally.	プロセス %1 を %2 回再起動しましたが、異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。						
rm	エラー	150	The cluster is stopped since process %1 was terminated abnormally.	プロセス %1 が異常終了したので、クラスタを停止します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm	エラー	151	The server is shut down since process %1 was terminated abnormally.	プロセス %1 が異常終了したので、サーバをシャットダウンします。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm	エラー	152	The server is restarted since process %1 was terminated abnormally.	プロセス %1 が異常終了したので、サーバを再起動します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
rm	エラー	160	Monitor resource %1 cannot be controlled since the license is invalid.	ライセンスが有効でないため、モニタリソース %1 を制御できません。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	情報	170	Recovery script has been executed since an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	-	●	●	●			
rm	エラー	171	An attempt was made to execute the recovery script due to a %1 monitoring failure, but failed.	%1 の監視異常により回復スクリプトを実行しましたが、失敗しました。	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●			
rm	情報	180	Dummy Failure of monitor resource %1 is enabled.	モニタリソース %1 の擬似障害を開始しました。	-	●	●	●			
rm	情報	181	Dummy Failure of monitor resource %1 is disabled.	モニタリソース %1 の擬似障害を停止しました。	-	●	●	●			
rm	情報	182	Dummy Failure of all monitor will be enabled.	全モニタリソースの擬似障害を開始します。	-	●	●	●			
rm	情報	183	Dummy Failure of all monitor will be disabled.	全モニタリソースの擬似障害を停止します。	-	●	●	●			
rm	警告	184	An attempt was made to enable Dummy Failure of monitor resource %1, but failed.	モニタリソース %1 の擬似障害の開始に失敗しました。	モニタリソース %1 が擬似障害に対応しているか確認してください。	●	●	●			
rm	警告	185	An attempt was made to disable Dummy Failure of monitor resource %1, but failed.	モニタリソース %1 の擬似障害の停止に失敗しました。	モニタリソース %1 が擬似障害に対応しているか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	情報	190	Recovery action caused by monitor resource error is disabled.	モニタリソース異常時の回復動作を無効にしました。	-	●	●	●			
rm	情報	191	Recovery action caused by monitor resource error is enabled.	モニタリソース異常時の回復動作を有効にしました。	-	●	●	●			
rm	警告	192	Ignored the recovery action in monitoring %1 because recovery action caused by monitor resource error is disabled.	モニタ異常時の回復動作が無効になっているため、モニタリソース %1 の回復動作が無視されました。	-	●	●	●			
rm	警告	193	Recovery action at timeout occurrence was disabled, so the recovery action of monitor %1 was not executed.	タイムアウト発生時の回復動作が無効であるため、監視 %1 の回復動作は実行されませんでした。	-	●	●	●			
rm	警告	200	Since there is no other normally running server, the final action(%1) for the error detection of monitor resource %2 was suppressed.	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためモニタリソース %2 の異常検出による最終動作 (%1) を抑制しました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベ ント 分類	イベ ント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
rm	警告	220	Recovery will not be executed since any recovery target is not active.	いずれの回復対象も起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	-	●	●	●			
rm	警告	221	Recovery will not be executed because the group that is set for the recovery target is not active.	回復対象に設定されたグループリソースの属するフェイルオーバーグループが非活性状態のため回復動作を行いません。	-	●	●	●			
mm	情報	901	Message monitor has been started.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が開始されました。	-	●	●	●			
mm	エラー	902	Failed to initialize message monitor. (%1 : %2)	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) の初期化に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
mm	警告	903	An error of %1 type and %2 device has been detected. (%3)	カテゴリ %1、キーワード %2 の外部エラー %3 を受信しました。	-	●	●	●			
mm	エラー	905	An error has been detected in monitoring %1. (%2)	モニタリソース %1 の監視で異常を検出しました。	%2 のメッセージに従った対処を実施してください。	●	●	●	●	●	●

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
mm	エラー	906	Message monitor was terminated abnormally.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
mm	エラー	907	Failed to execute action. (%1)	回復動作の実行に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
mm	情報	908	The system will be stopped.	OS のシャットダウンが実行されます。	-	●	●	●			
mm	情報	909	The cluster daemon will be stopped.	クラスタ停止が実行されます。	-	●	●	●			
mm	情報	910	The system will be rebooted.	OS のリブートが実行されます。	-	●	●	●			
mm	情報	911	Message monitor will be restarted.	メッセージモニタ (外部連携モニタの関連モジュール) が再起動されます。	-	●	●	●			
mm	情報	912	Received a message by SNMP Trap from external. (%1 : %2)	SNMP Trap のメッセージを受信しました。メッセージは、項目 (%1) の情報 (%2) を含みます。	-	●	●	●			
trnsv	エラー	1	There was a notification from external (IP=%1), but it was denied.	%1 から通知を受けましたが、許可されませんでした。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
trnsv	情報	10	There was a notification (%1) from external (IP=%2).	%2 から通知 (%1) を受け付けました。	-	●	●	●			
trnsv	情報	20	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been executed because a notification arrived from external.	外部通知により %2 の異常時動作 (%1) の実行を開始しました。	-	●	●	●			
trnsv	情報	21	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been completed.	モニタリソース %2 の異常時動作 (%1) が成功しました。	-	●	●	●			
trnsv	エラー	22	Attempted to recovery action (%1) of monitoring %2, but it failed.	モニタリソース %2 の異常時動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	異常時動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●			
trnsv	情報	30	Action (%1) has been completed.	動作 (%1) の実行に成功しました。	-	●	●	●			
trnsv	エラー	31	Attempted to execute action (%1), but it failed.	動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●			
trnsv	情報	40	Script before action of monitoring %1 has been executed.	モニタリソース (%1) の異常時動作前スクリプトを実行しました。	-	●		●			
trnsv	情報	41	Script before action of monitoring %1 has been completed.	モニタリソース (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に成功しました。	-	●		●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
trnsv	エラー	42	Attempted to execute script before action of monitoring %1, but it failed.	モニタリソース (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に失敗しました。	異常時動作前スクリプトが実行可能かどうか確認してください。	●		●			
trnsv	エラー	60	The log storage destination (%1) is not found.	ログ保存先 %1 が見つかりません。	指定した保存先が存在することを確認してください。	●	●	●			
trnsv	エラー	61	A path under the installation path is specified for the log storage destination.	ログ保存先にインストールパス配下のパスが指定されています。	ログ保存先にインストールパス配下のパスを指定しないでください。	●	●	●			
trnsv	エラー	70	Failed to execute the Amazon CloudWatch linkage function. (%1)	%1:The user is not permitted to execute the function.	クラウドサービスの権限を確認してください。	●	●	●			
				%1:An internal error has occurred.	Amazon Cloud-Watch 連携機能の設定を確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
lanhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3, actual-time=%5, delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			
lanhb	警告	72	Heartbeats sent from HB resource %1 are delayed.(server=%2, timeout=%3*%4, actual-time=%5, delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート送信で遅延が発生しました。送信先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。						

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
lanhb	警告	73	Heartbeats received by HB resource %1 are delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。送信元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。						
lankhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
lankhb	警告	73	Heartbeats received from resource %1 is delayed.(timeout=%2 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	HB リソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。						
diskhb	エラー	10	Device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	●			
diskhb	エラー	11	Device(%1) of resource(%2) is not a block device.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	●			
diskhb	エラー	12	Raw device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	●			
diskhb	エラー	13	Binding device(%1) of resource(%2) to raw device(%3) failed.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	●			
diskhb	エラー	14	Raw device(%1) of resource(%2) has already been bound to other device.	リソース %2 の raw デバイス %1 は別のデバイスにバインドされています。	使用していない raw デバイスを設定してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
diskhb	エラー	15	File system exists on device(%1) of resource(%2).	リソース %2 のデバイス %1 にはファイルシステムが存在します。	デバイス %1 を使用する場合はファイルシステムを削除してください。	●	●	●			
diskhb	情報	20	Resource %1 recovered from initialization error.	リソース %1 が初期化エラーから復帰しました。	-	●	●	●			
diskhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3, actual-time=%5, delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
diskhb	警告	72	Heartbeat write of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6).	HB リソース %1 のハートビート書き込みで遅延が発生しました。書き込み先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。						
diskhb	警告	73	Heartbeat read of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート読み込みで遅延が発生しました。読み込み元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。						

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
monp	エラー	1	An error occurred when initializing monitored process %1. (status=%2)	監視対象プロセス %1 の初期化エラーです。	メモリ不足、OS のリソース不足、または、構成情報が不整合である可能性が考えられます。確認してください。 構成情報が未登録状態であれば、以下のプロセスのメッセージが出力されますが、問題ありません。 + mdagent + webmgr + webalert	●	●	●			
monp	エラー	2	Monitor target process %1 terminated abnormally. (status=%2)	監視対象プロセス %1 が異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
monp	情報	3	Monitor target process %1 will be restarted.	監視対象プロセス %1 を再起動します。	-	●	●	●			
monp	情報	4	The cluster daemon will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、サーバを停止します。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
monp	エラー	5	Attempted to stop the cluster daemon, but failed.	サーバを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
monp	情報	6	The system will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを停止します。	-	●	●	●			
monp	エラー	7	Attempted to stop the system, but failed. (status=%1)	システムを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
monp	情報	8	System will be rebooted since monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを再起動します。	-	●	●	●			
monp	エラー	9	Attempted to reboot the system, but failed. (status=%1)	システムを再起動しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●			
cl	情報	1	There was a request to start %1 from the %2.	%2 から %1 の起動要求がありました。	-	●	●	●			
cl	情報	2	There was a request to stop %1 from the %2.	%2 から %1 の停止要求がありました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
cl	情報	3	There was a request to suspend %1 from the %2.	%2 から %1 のサスペンド要求がありました。	-	●	●	●			
cl	情報	4	There was a request to resume %1 from the %2.	%2 から %1 のリジューム要求がありました。	-	●	●	●			
cl	エラー	11	A request to start %1 failed(%2).	%1 の起動要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	12	A request to stop %1 failed(%2).	%1 の停止要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	13	A request to suspend %1 failed(%2).	%1 のサスペンド要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	14	A request to resume %1 failed(%2).	%1 のリジューム要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	15	A request to %1 cluster failed on some servers(%2).	サーバの %1 要求がいくつかのサーバで失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	16	A request to start %1 failed on some servers(%2).	%1 の起動が失敗したサーバがあります。	%1 の状態を確認してください。	●	●	●			
cl	エラー	17	A request to stop %1 failed on some servers(%2).	%1 の停止が失敗したサーバがあります。	%1 の状態を確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
cl	警告	18	Automatic start is suspended because the cluster service was not stopped according to the normal procedure.	「ダウン後自動起動する」が設定されていないため自動起動を中止しました。	クラスタサービスを起動するためには Cluster WebUI または clpcl コマンドでクラスタサービスを起動してください。	●	●	●			
cl	警告	20	A request to start %1 failed because cluster is running(%2).	クラスタが起動しているため、%1 の起動に失敗しました。	クラスタの状態を確認してください。	●	●	●			
cl	警告	21	A request to stop %1 failed because cluster is running(%2).	クラスタが起動しているため、%1 の停止に失敗しました。	クラスタの状態を確認してください。	●	●	●			
mail	エラー	1	The license is not registered. (%1)	ライセンスを購入して登録してください。	-	●	●	●			
mail	エラー	2	The trial license has expired in %1. (%2)	有効なライセンスを登録してください。	-	●	●	●			
mail	エラー	3	The registered license is invalid. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	-	●	●	●			
mail	エラー	4	The registered license is unknown. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	-	●	●	●			
mail	エラー	5	mail failed(%1).(SMTP server: %2)	メール通報が失敗しました。	SMTP サーバにエラーが発生していないか、あるいは SMTP サーバとの通信に問題がないか確認してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
mail	情報	6	mail succeeded.(SMTP server: %1)	メール通報が成功しました。	-	●	●	●			
userw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			
vipw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
ddnsw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) x %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	●			
apisv	情報	1	There was a request to stop cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	2	There was a request to shutdown cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	3	There was a request to reboot cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	4	There was a request to suspend cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバサスペンドの要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	10	There was a request to stop server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	情報	11	There was a request to shutdown server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	12	There was a request to reboot server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	30	There was a request to start group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ %1 の起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	31	There was a request to start all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	32	There was a request to stop group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ %1 の停止要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	33	There was a request to stop all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの停止要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	34	There was a request to restart group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ %1 の再起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	35	There was a request to restart all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの再起動要求がありました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	情報	36	There was a request to move group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ %1 の移動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	37	There was a request to move group from the %1(IP=%2).	%1 からグループ の移動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	38	There was a request to failover group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ %1 のフェイルオーバー要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	39	There was a request to failover group from the %1(IP=%2).	%1 からグループ のフェイルオーバー要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	42	There was a request to failover all groups from the %1(IP=%2).	%2 から全グループ のフェイルオーバー要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	43	There was a request to cancel waiting for the dependence destination group of group the %1 was issued from %2.	%2 からグループ %1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	50	There was a request to start resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース %1 の起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	51	There was a request to start all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの起動要求がありました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	情報	52	There was a request to stop resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース %1 の停止要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	53	There was a request to stop all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの停止要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	54	There was a request to restart resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース %1 の再起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	55	There was a request to restart all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの再起動要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	60	There was a request to suspend monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのサスペンド要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	61	There was a request to resume monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのリジューム要求がありました。	-	●	●	●			
apisv	情報	62	There was a request to enable Dummy Failure of monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースの擬似障害の開始要求がありました。	-	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	情報	63	There was a request to disable Dummy Failure of monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリ ソースの擬似障 害の停止要求が ありました。	-	●	●	●			
apisv	エラー	101	A request to stop cluster was failed(%1).	サーバ停止に失 敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	102	A request to shut-down cluster was failed(%1).	サーバシャット ダウンに失敗し ました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	103	A request to re-boot cluster was failed(%1).	サーバリブート に失敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	104	A request to suspend cluster was failed(%1).	サーバサスペン ドに失敗しまし た。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	110	A request to stop server was failed(%1).	サーバ停止に失 敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	111	A request to shut-down server was failed(%1).	サーバシャット ダウンに失敗し ました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	112	A request to re-boot server was failed(%1).	サーバリブート に失敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	113	A request to server panic was failed(%1).	サーバパニック に失敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			
apisv	エラー	114	A request to server reset was failed(%1).	サーバリセット に失敗しました。	サーバの状態を 確認してくださ い。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	エラー	115	A request to server sysrq was failed(%1).	SYSRQ パニックに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	116	A request to KA RESET was failed(%1).	Keepalive リセットに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	117	A request to KA PANIC was failed(%1).	Keepalive パニックに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	118	A request to BMC RESET was failed(%1).	BMC リセットに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	119	A request to BMC PowerOff was failed(%1).	BMC パワーオフに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	120	A request to BMC PowerCycle was failed(%1).	BMC パワーサイクルに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	121	A request to BMC NMI was failed(%1).	BMC NMI に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	130	A request to start group(%1) was failed(%2).	グループ (%1) の起動に失敗しました。	rc が出力するグループ起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	131	A request to start all groups was failed(%1).	全グループの起動に失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	132	A request to stop group(%1) was failed(%2).	グループ (%1) の停止に失敗しました。	rc が出力するグループ停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	エラー	133	A request to stop all groups was failed(%1).	全グループの停止に失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	134	A request to restart group(%1) was failed(%2).	グループ (%1) の再起動に失敗しました。	rc が出力するグループ停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	135	A request to restart all groups was failed(%1).	全グループの再起動に失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	136	A request to move group(%1) was failed(%2).	グループ (%1) の移動に失敗しました。	rc が出力するグループ移動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	137	A request to move all groups was failed(%1).	全グループの移動に失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	138	A request to failover group(%1) was failed(%2).	グループ (%1) のフェイルオーバーに失敗しました。	rc が出力するグループフェイルオーバー失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	139	A request to failover group was failed(%1).	全グループのフェイルオーバーに失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	142	A request to failover all groups was failed(%1).	全グループのフェイルオーバーに失敗しました。	同上	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	エラー	143	A request to cancel waiting for the dependency destination group of group %1 has failed(%2).	グループ %1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセルに失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	150	A request to start resource(%1) was failed(%2).	リソース (%1) の起動に失敗しました。	rc が出力するリソース起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	152	A request to stop resource(%1) was failed(%2).	リソース (%1) の停止に失敗しました。	rc が出力するリソース停止失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	154	A request to restart resource(%1) was failed(%2).	リソース (%1) の再起動に失敗しました。	rc が出力するリソース再起動失敗のメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●			
apisv	エラー	155	A request to restart all resources was failed(%1).	全リソースの再起動に失敗しました。	同上	●	●	●			
apisv	エラー	160	A request to suspend monitor resource was failed(%1).	モニタリソースのサスペンドに失敗しました。	モニタリソースの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	161	A request to resume monitor resource was failed(%1).	モニタリソースのリジュームに失敗しました。	同上	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
apisv	エラー	162	A request to enable Dummy Failure of monitor resource was failed(%1).	モニタリソースの擬似障害の開始に失敗しました。	モニタリソースの状態を確認してください。	●	●	●			
apisv	エラー	163	A request to disable Dummy Failure of monitor resource was failed(%1).	モニタリソースの擬似障害の停止に失敗しました。	同上	●	●	●			
cfmgr	情報	1	The cluster configuration data has been uploaded by %1.	構成情報がアップロードされました。	-	●	●	●			
sra	エラー	1	system monitor closed because reading the SG file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●				
sra	エラー	2	Opening an ignore file failed. file name = %1, errno = %2. %1: ファイル名 %2:errno	SG ファイル (%1) をオープンできませんでした。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	3	Reading a configuration file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●				
sra	エラー	4	Trace log initialization failed.	内部ログファイルの初期化に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	5	Creating a daemon process failed.	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	エラー	6	Reading a service configuration file failed.	SG ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください。		●				
sra	エラー	7	mlock() failed.	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	エラー	8	A daemon process could not be created.	SystemResource Agent の起動（プロセスのデーモン化）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	エラー	9	stdio and stderr could not be closed.	SystemResource Agent の起動（標準入出力の close）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	10	A signal mask could not be set up.	SystemResource Agent の起動（シグナルマスクの設定）に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	エラー	11	A configuration file error occurred. (1) [line = %1, %2] %1: 行 %2: 設定値	SystemResource Agent の起動（SG ファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	12	A configuration file error occurred. (2) [line=%1, %2] %1: 行 %2: 設定値	SystemResource Agent の起動（SG ファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	13	A plugin event configuration file error occurred. The DLL pointer was not found. [line = %1, %2] %1: 行 %2: 設定値	SystemResource Agent の起動（プラグインイベント登録）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	14	malloc failed. [event structure]	SystemResource Agent の起動（プラグインイベント登録）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	15	A service configuration file error occurred due to an invalid event. [%1] %1: 設定値	SystemResource Agent の起動（サービスファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	16	A plugin event configuration file error occurred due to %1. %1: エラー原因	SystemResource Agent の起動（プラグインイベントファイルの読み込み）に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	エラー	17	Internal error occurred.	共有メモリアクセスエラーが発生しました。	-		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	警告	101	Opening an SG file failed. file name = %1, errno = %2 %1: ファイル名 %2:errno	SG ファイル (%1) をオープンできませんでした。	SG ファイルを再作成し、クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●				
sra	警告	102	malloc(3) fail(1) . [%1] %1: 関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	警告	103	malloc(3) fail(2). [%1] %1: 関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	警告	104	An internal error occurred. rename(2) error (errno = %1) %1:errno	本製品が異常終了しました。	直前に出力されているシステムログメッセージを参照してください。		●				
sra	警告	105	realloc(3) fail. [%1]. %1: 関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	警告	106	A script timed out. (%1 %2) %1: スクリプト ファイル名 %2: 引数	内部エラーが発生しました。	サーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。		●				
sra	警告	107	[%1] execvp(2) fail (%2). %1: スクリプト名 %2:errno	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	警告	108	[%1] fork fail (%2). Suspended. %1: スクリプト名 %2:errno	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	警告	109	malloc(3) fail. [%1] %1: 関数名	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●				
sra	情報	201	A script was executed. (%1) %1: スクリプト名	スクリプト (%1) を実行しました。	-		●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	情報	202	Running a script finished. (%1) %1: スクリプト名	スクリプトが正常に終了しました。	-		●				
sra	情報	203	An %1 event succeeded. %1: 実行したイベント種別	運用管理コマンドを実行しました。 %1 は実行したイベント種別 (boot, shutdown, stop, start, flush) が出力されます。	-		●				
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = cpu, pid = %2, %3) %1: モニタリソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	特定プロセスの CPU 使用率監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = memory leak, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	特定プロセスのメモリ使用量監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = file leak, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	特定プロセスのオープンファイル数（最大値）監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = open file, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	特定プロセスの オープンファイ ル数 (カーネル上 限值) 監視で異常 を検出しました。	監視異常の原因 を確認してくだ さい。	●	●				
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = thread leak, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	特定プロセスの スレッド数監視 で異常を検出し ました。	監視異常の原因 を確認してくだ さい。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = defunct, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	ゾンビプロセス 監視で異常を検 出しました。	監視異常の原因 を確認してくだ さい。	●	●				
sra	エラー	301	A process resource error was detected. (%1, type = same name process, pid = %2, %3) %1: モニタリ ソース名 %2: プロセス ID %3: プロセス名	同一名プロセス 監視で異常を検 出しました。	監視異常の原因 を確認してくだ さい。	●	●				
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (%1, type = cpu) %1: モニタリ ソース名	システムの CPU 使用率監視で異 常を検出しまし た。	監視異常の原因 を確認してくだ さい。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (%1, type = memory) %1: モニタリソース名	システムの総メモリ使用量監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (%1, type = swap) %1: モニタリソース名	システムの総仮想メモリ使用量監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (%1, type = file) %1: モニタリソース名	システムの総オープンファイル数監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	302	A system resource error was detected. (%1, type = thread) %1: モニタリソース名	システムの総スレッド数監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	303	A system resource error was detected. (%1, type = number of process, user name = %2) %1: モニタリソース名 %2: ユーザ名	システムのユーザごとの起動プロセス数監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = used rate, level = NOTICE, %2) %1: モニタリソース名 %2: マウントポイント	ディスク使用率監視で通知レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = used rate, level = WARNING, %2) %1: モニタリ ソース名 %2: マウントポイント	ディスク使用率監視で警告レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = free space, level = NOTICE, %2) %1: モニタリ ソース名 %2: マウントポイント	ディスク空き容量監視で通知レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = free space, level = WARNING, %2) %1: モニタリ ソース名 %2: マウントポイント	ディスク空き容量監視で警告レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = inode used rate, level = NOTICE, %2) %1: モニタリ ソース名 %2: マウントポイント	inode 使用率監視で通知レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
sra	エラー	304	A disk resource error was detected. (%1, type = inode used rate, level = WARNING, %2) %1: モニタリ ソース名 %2: マウントポイント	inode 使用率監視で警告レベルの異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●				
lcns	情報	1	The number of license is %1. (Product name:%2)	クラスタのライセンス数は %1 です。 %1: ライセンス数 %2: 製品名	-	●	●	●			
lcns	情報	2	The trial license is valid until %1. (Product name:%2)	試用版ライセンスの有効期間は %1 までです。 %1: 試用終了日 %2: 製品名	-	●	●				

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
lcns	警告	3	The number of licenses is insufficient. The number of insufficient licenses is %1. (Product name:%2)	ライセンスが不足しています。 不足ライセンス数は %1 です。 %1: ライセンス不足数 %2: 製品名	不足数分のライセンスを購入して登録してください。	●	●				
lcns	エラー	4	The license is not registered. (Product name:%1)	ライセンスが登録されていません。 %1: 製品名	ライセンスを購入して登録してください。	●	●	●			
lcns	エラー	5	The trial license has expired in %1. (Product name:%2)	試用版ライセンスの有効期限切れです。 %1: 試用終了日 %2: 製品名	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			
lcns	エラー	6	The registered license is invalid. (Product name:%1, Serial No:%2)	登録されているライセンスが無効な状態です。 %1: 製品名 %2: シリアルナンバー	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
lcns	エラー	7	The registered license is unknown. (Product name:%1)	登録されているライセンスが不明な状態です。 %1: 製品名	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			
lcns	エラー	8	The trial license is valid from %1. (Product name:%2)	試用版ライセンスの有効期間に到達していません。 %1: 試用開始日 %2: 製品名	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			
lcns	情報	9	The fixed term license is valid until %1. (Product name:%2)	期限付きライセンスの有効期間は %1 までです。 %1: 有効期間終了日 %2: 製品名	-	●	●				
lcns	エラー	10	The fixed term license has expired in %1. (Product name:%2)	期限付きライセンスの有効期限切れです。 %1: 有効期間終了日 %2: 製品名	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●			

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6
reg	情報	1	The number of reboots due to group resource errors has been reset.	グループリソース異常による再起動回数をリセットしました。	再起動回数については『設定ガイド』 - 「監視動作の詳細」 - 「再起動回数制限について」を参照してください。	●	●	●			
reg	情報	2	The number of reboots due to monitor resource errors has been reset.	モニタリソース異常による再起動回数をリセットしました。	再起動回数については『設定ガイド』 - 「監視動作の詳細」 - 「再起動回数制限について」を参照してください。	●	●	●			
webmgr	警告	21	HTTPS configuration isn't correct, HTTPS mode doesn't work. Please access WebManager by HTTP mode.	HTTPS の設定が正しくないため、HTTPS で WebManager を利用できません。WebManager へは HTTP で接続してください。	-	●	●	●			

4.2 ドライバの syslog メッセージ

4.2.1 カーネルモード LAN ハートビートドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	101	Kernel Heartbeat was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpkhb ドライバのロードが成功しました。	-
clpkhb	情報	102	Kernel Heartbeat was released successfully.	clpkhb ドライバのアンロードが成功しました。	-
clpkhb	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのロードに失敗しました。	-
clpkhb	エラー	104	Can not deregister miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのアンロードに失敗しました。	-
clpkhb	情報	105	Kernel Heartbeat was initialized by %1.	clpkhb ドライバは [%1] モジュールにより正常に初期化されました。	-
clpkhb	情報	106	Kernel Heartbeat was terminated by %1.	clpkhb ドライバは [%1] モジュールにより正常に終了されました。	-
clpkhb	エラー	107	Can not register Kernel Heartbeat proc file!	clpkhb ドライバ用の proc ファイルの作成に失敗しました。	-
clpkhb	エラー	108	Version error.	clpkhb ドライバの内部バージョン情報が不正です。	CLUSTERPRO を再インストールしてください。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	110	The send thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は [%1] です。	-
clpkhb	情報	110	The recv thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は [%1] です。	-
clpkhb	エラー	111	Failed to create send thread. (err=%1)	エラー [%1] により、clpkhb ドライバの送信スレッドの作成に失敗しました。	-
clpkhb	エラー	111	Failed to create recv thread. (err=%1)	エラー [%1] により、clpkhb ドライバの受信スレッドの作成に失敗しました。	-
clpkhb	情報	112	Killed the send thread successfully.	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に停止されました。	-
clpkhb	情報	112	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に停止されました。	-
clpkhb	情報	113	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバを終了しています。	-

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	114	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバを停止しています。	-
clpkhb	情報	115	Kernel Heartbeat has been stopped	clpkhb ドライバは正常に停止しました。	-
clpkhb	エラー	120	Failed to create socket to send %1 packet. (err=%2)	エラー [%2] により、[%1] (HB/DOWN/KA) パケット送信用のソケットの作成に失敗しました。	-
clpkhb	エラー	120	Failed to create socket to receive packet. (err=%2)	エラー [%2] により、パケット受信用のソケットの作成に失敗しました。	-
clpkhb	エラー	121	Failed to create sending %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。 物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	122	Failed to create %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。 物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	123	Failed to bind %1 socket. (err=%2)	[%1] (HB/DOWN/KA/recv) 用ソケットのバインド に失敗しました。	OS の状態を確認してください。 clpkhb 用の通信ポート が既に他のアプリケーション等により利用されている可能性があります。通信ポートの使用状況を確認してください。 インタコネクト LAN I/F に設定した IP アドレスに誤りがないか、クラスタ構成情報のサーバのプロパティを確認してください。
clpkhb	エラー	125	Failed to send %1 data to %2. (err=%3)	[%1] (HB/DOWN/KA) データを [%2] へ送信できませんでした。	clpkhb 通信用のネットワークの状態を確認してください。 相手サーバの状態を確認してください。 設定情報に問題がないか、確認してください。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	126	Failed to receive data. (err=%3)	データ受信に失敗しました。	相手サーバがダウンしている可能性があります。確認してください。 相手サーバがダウンしていない場合には、clpkhb 用のネットワークの状態を確認してください。
clpkhb	情報	127	1. Received an invalid packet. Magic is not correct! 2. Received an invalid packet from %1. Magic(%2) is not correct!	1. 不正なパケットを受信しました。無視します。 2. [%1] から不正なパケット [%2] を受信しました。無視します。	別のアプリケーションが、clpkhb 用のポートにデータを送信している可能性があります。ポートの使用状況を確認してください。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	128	1. Received an invalid packet. %1 is not correct! 2. Received an invalid packet from %1. %2 is not correct!	1. 不正なパケットを受信しました。パケット内の不正箇所は[%1](Resource priority/Source ip address)です。 2. [%1] から不正なパケットを受信しました。パケット内の不正箇所は[%2](Resource priority/Source ip address)です。	同上。
clpkhb	情報	129	Receiving operation was interrupted by ending signal!	受信スレッドは終了シグナルにより終了します。	-

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	130	1. clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system reboot. 2. clpka: <server priority: %1> <source: %2> <exit code: %3> system reboot.	1. 他サーバからのリ セット通知を受信 しました。プライ オリティ [%1] の サーバは、[%3] プ ロセスに [%2] の 異常が発生したた め、リセットしま す。 2. 他サーバからのリ セット通知を受信 しました。プライ オリティ [%1] の サーバは、[%2] が 終了コード [%3] で終了したため、 リセットします。	リセットが発生したサー バの状態を確認してくだ さい。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	131	1. clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system panic. 2. clpka: <server priority: %1> <source: %2> <exit code: %3> system panic.	1. 他サーバからのパ ニック通知を受信 しました。プライ オリティ [%1] の サーバは、[%3] プ ロセスに [%2] の 異常が発生したた め、パニックしま す。 2. 他サーバからのパ ニック通知を受信 しました。プライ オリティ [%1] の サーバは、[%2] が 終了コード [%3] で終了したため、 パニックします。	パニックが発生したサー バの状態を確認してく ださい。
clpkhb	エ ラー	140	Reference an inaccessible memory area!	ioctl() によるアプリケー ションとのデータの受け 渡しに失敗しました。	OS の状態を確認してく ださい。
clpkhb	エ ラー	141	Failed to allocate mem- ory!	メモリの確保に失敗しま した。	物理メモリが不足してい る可能性があります。物 理メモリを増設するか、 余分なアプリケーション を終了してください。
clpkhb	エ ラー	142	Invalid argument, %1!	clpkhb ドライバに渡さ れたパラメータが正しく ありません。	設定が正しく行われてい るか、確認してください。

次のページに続く

表 4.2 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	警告	143	Local node has nothing with current resource.	clpkhb ドライバに渡されたハートビートリソース情報が正しくありません。	同上。

4.2.2 キープアライブドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpka	情報	101	Kernel Keepalive was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpka ドライバは正常にロードされました。	-
clpka	情報	102	Kernel Keepalive was released successfully.	clpka ドライバは正常にアンロードされました。	-
clpka	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpka ドライバのロードに失敗しました。	カーネルモード LAN ハートビートが対応しているディストリビューション、カーネルであるか確認してください。
clpka	情報	105	Kernel Keepalive was initialized by %1.	clpka ドライバは正常に初期化されました。	-

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpka	エラー	107	Can not register Kernel Keepalive proc file!	clpka ドライバ用の proc ファイルの作成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	エラー	108	Version error.	clpka ドライバのバージョンが不正です。	インストールされている clpka ドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	111	Failed to create notify thread. (err=%1)	clpka ドライバのスレッドの生成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	情報	130	Reboot tried.	設定に従い、clpka ドライバがマシンの再起動を試みました。	-
clpka	情報	132	Kernel do nothing.	設定に従い、clpka ドライバは何も行いませんでした。	-
clpka	エラー	140	Reference an inaccessible memory area!	clpka ドライバのバージョン情報をクラスタ本体へ渡せませんでした。	インストールされている clpka ドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	141	Failed to allocate memory!	物理メモリが不足しています。	物理メモリが不足しています。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpka	エラー	142	Invalid argument, %1!	clpka ドライバヘクラス タ本体から不正な情報が 渡されました。	インストールされてい る clpka ドライバが正規 のものか確認してくださ い。
clpka	エラー	144	Process (PID=%1) is not set.	clpka ドライバヘクラス タ本体 以外のプロセス (%1) から操作が行われ ようしました。	clpka ドライバへ誤って アクセスしようとしたア プリケーション (%1) が ないか確認してくださ い。

4.3 グループリソース活性/非活性時の詳細情報

4.3.1 EXEC リソース

	分類	返値	メッセージ	説明	対処
モジュール タイプ					
exec	エラー	1	Termination code %1 was returned.	同期型のスクリプトまたはアプリケーションの実行結果として 0 以外の終了コードが戻されました。	スクリプトの場合、スクリプトの内容に問題がある可能性があります。スクリプトが正しく記述されているか確認してください。 アプリケーションの場合、アプリケーションが異常終了した可能性があります。アプリケーションの動作を確認してください。

次のページに続く

表 4.4 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Command was not completed within %1 seconds.	同期型のスクリプトまたはアプリケーションの実行が指定時間以内に正常終了しませんでした。	スクリプトの場合、スクリプトの内容に問題がある可能性があります。スクリプトが正しく記述されているか確認してください。 アプリケーションの場合、アプリケーションがストールした可能性があります。アプリケーションの動作を確認してください。 それぞれ、ログから原因を特定できる可能性があります。
exec	エラー	1	Command was aborted.	同期型のスクリプトまたはアプリケーションが異常終了しました。	アプリケーションの場合、アプリケーションが異常終了した可能性があります。アプリケーションの動作を確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.4 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Command was not found. (error=%1)	アプリケーションが存在 しませんでした。	アプリケーションのパスが不正な可能性があります。構成情報のアプリケーションのパスを確認してください。
exec	エラー	1	Command string was invalid.	アプリケーションのパスが不正です。	構成情報のアプリケーションのパスを確認してください。
exec	エラー	1	Log string was invalid.	ログ出力先のパスが不正です。	構成情報のログ出力先のパスを確認してください。
exec	エラー	1	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4 モニタリソース異常時の詳細情報

4.4.1 ソフト RAID モニタリソース

	分類	返値	メッセージ	説明	対処
モジュール タイプ					
lmdw	警告	101	Device=(%1): Bad disks(%2) are detected in mirror disk.	ミラーディスクの配下の物理ディスクは一部壊れて、[警告] のステータスです。	ミラーディスク自身は使用可能ですが、壊れた物理ディスクの取替えを行う必要があります。
lmdw	警告	102	Internal error.err=%1	内部エラーが発生したことを示します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
lmdw	警告	190	Internal error.err=%1	内部エラーが発生したことを示します。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
lmdw	警告	102	Config file error.(err=%1)	構成情報の内容が異常であることを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	警告	190	Config file error.(err=%1)	構成情報の内容が異常であることを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	警告	190	Soft RAID module has a problem. (err=%1)	Soft RAID 関連のカーネルモジュールは異常である。	-
lmdw	警告	190	Options or parameters are invalid.	コマンドパラメータエラーが発生したことを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	警告	190	Failed to read config file.(err=%1)	構成ファイルの読み取りに失敗したことを示します。	構成情報が存在するか確認してください。
lmdw	警告	191	Device=(%1): Mirror disk is in recovery process (%2).	ミラーディスクは [復帰中] です。	-

4.4.2 IP モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	5	Ping was failed by time-out. IP=%1...	ping コマンドがタイムアウトにより失敗しました。	システム高負荷、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	エラー	31	Ping cannot reach. (ret=%1) IP=%2...	ping コマンドによるパケットが届きませんでした。	該当 IP アドレスへの ping コマンドが成功するか確認してください。ping コマンドが失敗した場合は、該当 IP アドレスをもつ機器の状態、あるいはネットワークインターフェイスの状態を確認してください。
ipw	警告	102	Ping was failed. (ret=%1) IP=%2...	ping コマンドが失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	警告	106	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	警告	108～121	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.6 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	警告	189	Internal error. (status=%1)	IP モニタリソースの監視処理がタイムアウトにより失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.3 ディスクモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	12	Ioctl was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスの制御に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	14	Open was failed. (err=%1) File=%2	ファイルのオープンに失敗しました。	ファイル名と同じようなディレクトリが存在しているか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	14	Open was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスのオープンに失敗しました。	ファイル名と同じようなディレクトリが存在しているか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	16	Read was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスからの読み込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	18	Write was failed. (err=%1) File=%2	ファイルの書き込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	41	SG_IO failed. (sg_io_hdr_t info:%1 SG_INFO_OK_MASK: %2)	SG_IO に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。
diskw	エラー	49	Already bound for other. Rawdevice=%1 Device=%2	RAW デバイスは既に他の実デバイスにバインドされています。	設定した RAW デバイスは既に他の実デバイスにバインドされています。Cluster WebUI で RAW デバイス名を変更してください
diskw	エラー	55	Bind was failed. Rawdevice=%1 Device=%2	バインドに失敗しました。	バインドに失敗しました。Cluster WebUI で RAW デバイス名を確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	56	Lseek was failed by time-out. Device=%1	lseek に失敗しました。	システム高負荷、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	57	Fdatasync was failed by timeout. Device=%1	fdatasync に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	101	Ioctl was failed by time-out. Device=%1	デバイスの制御がタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	Open was failed by time-out. File=%1	ファイルのオープンがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	101	Open was failed by time-out. Device=%1	デバイスのオープンがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	Read was failed by time-out. Device=%1	デバイスからの読み込みがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	101	Write was failed by time-out. File=%1	ファイルの書き込みがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が ON になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	Bind was failed. Rawdevice=%1 Device=%2	バインドに失敗しました。	バインドに失敗しました。Cluster WebUI で RAW デバイス名を確認してください。
diskw	警告	101	Stat was failed. (err=%1) Device=%2	stat に失敗しました。	stat に失敗しました。Cluster WebUI でデバイス名を確認してください。
diskw	警告	101	Popen was failed. (err=%1)	popen に失敗しました。	popen に失敗しました。メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
diskw	警告	190	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	101	Internal error. (status=%1)	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	190	Internal error. (status=%1)	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	190	Parameter was invalid. File=%1	指定されたファイル名が不正です。	/dev で始まるデバイスファイルは指定しないでください。通常のファイルを指定してください。
diskw	警告	190	Device was invalid. Device=%1	指定された実デバイスが不正です。	Cluster WebUI でディスクモニタリソースのデバイス名を確認してください。
diskw	警告	191	Ignored disk full error.	ディスクフルエラーを無視しました。	デバイスの使用状況を確認してください。

4.4.4 PID モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pidw	エラー	1	Process does not exist. (pid=%1)	プロセスが存在しません。	監視対象プロセスが何らかの原因により消滅しました。確認してください。
pidw	警告	100	Resource %1 was not found.	リソースが見つかりませんでした。	Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
pidw	警告	100	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.5 ユーザ空間モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	警告	190	Initialize error. (%1)	プロセスの初期化中に異常を検出しました。	ユーザ空間モニタリソースが依存するドライバが存在するか、または rpm がインストールされているかどうか確認してください。依存するドライバまたは rpm は監視方法によって異なります。

4.4.6 カスタムモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	エラー	1	Initialize error. (status=%1)	初期化中に異常を検出しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	2	Termination code %1 was returned.	意図しない戻り値が返されました。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	3	User was not superuser.	root ユーザではありません。	root ユーザでログインしてください。
genw	エラー	4	Getting of config was failed.	クラスタ構成情報の取得に失敗しました。	クラスタ構成情報が存在するか確認してください。
genw	エラー	5	Parameter was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	6	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	7	Monitor Resource %1 was not found.	リソースが見つかりませんでした。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	8	Create process failed.	プロセスの生成に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	9	Process does not exist. (pid=%1)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	10	Process aborted. (pid=%1)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	11	Asynchronous process does not exist. (pid=%1)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	12	Asynchronous process aborted. (pid=%1)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	13	Monitor path was invalid.	パスが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	警告	110	Returned warning value (%1).	同期タイプのスクリプトが警告値を返却しました。	スクリプトが警告値を返却した原因を確認してください。
genw	エラー	その他	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	-

4.4.7 マルチターゲットモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
mtw	エラー	1	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
mtw	エラー	2	User was not superuser.	root ユーザではありません。	root ユーザでログインしてください。
mtw	エラー	3	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	-

4.4.8 JVM モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
jraw	エラー	11	An error was detected in accessing the monitor target.	監視対象の Java VM に接続できません。	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
jraw	エラー	12	JVM status changed to abnormal. cause = %1.	Java VM の監視で異常を検出しました。 %1：異常発生原因 GarbageCollection JavaMemoryPool Thread WorkManagerQueue WebOTXStall	メッセージを元に監視対象の Java VM 上で動作している Java アプリケーションを確認してください。
jraw	警告	189	Internal error occurred.	内部エラーが発生しました。	クラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを実行してください。

4.4.9 システムモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sraw	エラー	11	Detected an error in monitoring system resource	システムリソースの監視で異常を検出しました。	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.4.10 プロセスリソースモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psrw	エラー	11	Detected an error in monitoring process resource	プロセスリソースの監視で異常を検出しました。	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.4.11 NIC Link Up/Down モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	エラー	20	NIC %1 link was down.	NIC の Link が Down しました。	LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
miiw	警告	110	Get address information was failed. (err=%1)	IPv4 または、IPv6 アドレスファミリーのソケットアドレスの取得に失敗しました。	カーネルのコンフィグレーションが TCP/IP ネットワーキング (IPv4 または、IPv6) をサポートしているか確認してください。
miiw	警告	111	Socket creation was failed. (err=%1)	ソケットの作成に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.15 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	警告	112	ioctl was failed. (err=%1) Device=%2 Request=%3	ネットワークドライバへの制御リクエストが失敗しました。	ネットワークドライバが %3 の制御リクエストをサポートしているか確認してください。
miiw	警告	113	MII was not supported or no such device. Device=%1	NIC に MII がサポートされていないかあるいは、監視対象が存在しません。	監視対象が存在しない場合は、ifconfig 等でネットワークインターフェイス名を確認してください。
miiw	警告	189	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	-
miiw	警告	190	Option was invalid.	オプションが不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
miiw	警告	190	Config was invalid. (err=%1) %2	構成情報が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。

4.4.12 ボリュームマネージャモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
volmgrw	エラー	21	Command was failed. (cmd=%1, ret=%2)	%1 のコマンドが失敗しました。コマンドの戻り値は %2 です。	コマンドが失敗しました。ボリュームマネージャの動作状況を確認してください。
volmgrw	エラー	22	Internal error. (status=%1)	その他の内部エラーが発生しました。	-

次のページに続く

表 4.16 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
volmgrw	エラー	23	Internal error. (status=%1)	その他の内部エラーが発生しました。	-
volmgrw	警告	190	Option was invalid.	オプションが不正です。	Cluster WebUI でクラス タ構成情報を確認してく ださい。
volmgrw	警告	191	%1 %2 is %3 !	ボリュームマネージャ (%1) のターゲット (%2) のステータスが %3 に遷 移しました。	ボリュームマネージャ ターゲットの状態を確認 してください。
volmgrw	警告	そ の 他	Internal error. (status=%1)	その他の内部エラーが発生しました。	-

4.4.13 プロセス名モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	エラー	11	Process[%1 (pid=%2)] Down	監視対象プロセスの消滅 を検出しました。	監視対象プロセスが正し く動作しているか確認し てください。
psw	エラー	12	The number of processes is less than the specified minimum process count. %1/%2 (%3)	監視対象プロセスの起動 プロセス数が指定された 下限値未満になっていま す。	監視対象プロセスが正し く動作しているか確認し てください。

次のページに続く

表 4.17 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	警告	100	Monitoring timeout	監視はタイムアウトしました。	OS が高負荷状態の可能性があります。確認してください。
psw	警告	101	Internal error	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
psw	警告	190	Internal error	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
psw	警告	190	Initialize error	初期化中に異常を検出しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.14 監視オプションモニタリソース

監視オプションモニタリソースは共通のメッセージを使用します。モジュールタイプは監視オプションモニタリソースごとに異なります。

監視オプションモニタリソース	モジュールタイプ
DB2 モニタリソース	db2w
FTP モニタリソース	ftpw
HTTP モニタリソース	httpw
IMAP4 モニタリソース	imap4w
MySQL モニタリソース	mysqlw
NFS モニタリソース	nfsw
ODBC モニタリソース	odbcw
Oracle モニタリソース	oraclew
POP3 モニタリソース	pop3w

次のページに続く

表 4.18 – 前のページからの続き

監視オプションモニタリソース	モジュールタイプ
PostgreSQL モニタリソース	psqlw
Samba モニタリソース	sambaw
SMTP モニタリソース	smtpw
SQL Server モニタリソース	sqlserverw
Tuxedo モニタリソース	tuxw
WebLogic モニタリソース	wlsw
WebSphere モニタリソース	wasw
WebOTX モニタリソース	otxw

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	エラー	5	Failed to connect to %1 server. [ret=%2]	監視対象への接続に失敗しました。 %1 には、アプリケーション名が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	7	Failed to execute SQL statement (%1). [ret=%2]	SQL 文の実行に失敗しました。 %1 には、監視対象が入ります。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	8	Failed to access with %1.	監視対象とのデータアクセスが失敗しました。 %1 には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	エラー	9	Detected error in %1.	監視対象が異常です。 %1 には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	警告	104	Detected function exception. [%1, ret=%2]	異常を検出しました。 %1 には監視対象が入ります。	Cluster WebUI でクラス タ構成情報を確認して ください。 OS が高負荷状態の可能 性があります。確認し てください。
(別表)	警告	106	Detected authority error.	ユーザ認証が失敗しました。	ユーザ名・パスワード・ アクセス権を確認してく ださい。
(別表)	警告	106	Client authentication error.	クライアント認証に失敗 しました。	秘密鍵・クライアント証 明書が正しく設定され ているか確認してくださ い。
(別表)	警告	111	Detected timeout error.	監視対象と通信タイムア ウトになりました。	OS が高負荷状態の可能 性があります。確認して ください。
(別表)	警告	112	Can not found install path. (install path=%1)	インストールパスが見 つかりません。 %1 にはインストールパ スが入ります。	インストールパスの場所 を確認してください。

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	警告	113	Can not found library. (libpath=%1, errno=%2)	指定した場所からライブラリをロードすることができませんでした。 %1 にはライブラリのパスが入ります。	ライブラリの場所を確認してください。
(別表)	警告	171	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。 監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。
(別表)	情報	181	The collecting of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been started (timeout=%2).	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは %2 秒です。	-
(別表)	情報	182	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been completed.	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	-
(別表)	警告	183	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been failed (%2).	モニタリソース %1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。(%2)	-

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	警告	189	Internal error. (status=%1)	内部エラーを検出しました。	-
(別表)	警告	190	Init error. [%1, ret=%2]	初期化中に異常を検出しました。 %1 には license, library, XML, share memory, log の一つが入ります。	OS が高負荷状態の可能性があります。確認してください。
(別表)	警告	190	Get config information error. [ret=%1]	設定情報の取得に失敗しました。	Cluster WebUI でクラス タ構成情報を確認してください。
(別表)	警告	190	Invalid parameter.	Config ファイル/Policy ファイルの設定情報が 不正です。 コマンドのパラメータ が不正です。	Cluster WebUI でクラス タ構成情報を確認してください。
(別表)	警告	190	Init function error. [%1, ret=%2]	初期化中に関数の異常 を検出しました。 %1 には実行関数名が入 ります。	OS が高負荷状態の可能 性があります。確認して ください。
(別表)	警告	190	User was not superuser.	ユーザは Root 権限を持 っていません。	実行ユーザが root 権限 を持っていないか或い は、メモリ不足または、 OS のリソース不足が考 えられます。確認してく ださい。

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	警告	190	The license is not registered.	ライセンスが登録されていません。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	警告	190	The registration license overlaps.	登録したライセンスが重複しています。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	警告	190	The license is invalid.	ライセンスが不正です。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	警告	190	The license of trial expired by %1.	試用版ライセンスの試用期限が切れています。 %1 には使用期限が入ります。	-
(別表)	警告	190	The license of trial effective from %1.	試用版ライセンスの試用開始期限になっていません。 %1 には使用期限が入ります。	-
(別表)	警告	190	Not supported algorithm(%1).	サポートしていないアルゴリズムです。 %1 にはアルゴリズムが入ります。	-

4.5 JVM モニタリソースのログ出力メッセージ

以下のメッセージは JVM モニタリソース独自のログファイルである JVM 運用ログのメッセージ一覧です。

4.5.1 JVM 運用ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to write the %1\$s.stat.	JVM 統計ログの書き込みに失敗しました。 %1\$s.stat : JVM 統計ログファイル名	ディスク空き容量が十分か確認してください。
%1\$s: analyze finish[%4\$s]. state = %2\$s, cause = %3\$s	(監視対象の Java VM の状態が異常時) 監視対象の Java VM でリソース使用量がしきい値を超えました。 %1\$s : 監視対象の Java VM 名称 %2\$s : 監視対象の Java VM の状態 (1=正常,0=異常) %3\$s : 異常発生時のエラー発生箇所 %4\$s : 計測スレッド名	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
thread stopped by UncaughtException.	JVM モニタリソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM モニタリソースを再起動してください。
thread wait stopped by Exception.	JVM モニタリソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM モニタリソースを再起動してください。
%1\$s: monitor thread can't connect to JVM.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1\$s : 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: monitor thread can't get the JVM state.	監視対象の Java VM からリソース使用量が取得できませんでした。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
%1\$s: JVM state is changed [abnormal -> normal].	監視対象の Java VM の状態が異常から正常へ変化しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	-
%1\$s: JVM state is changed [normal -> abnormal].	監視対象の Java VM の状態が正常から異常へ変化しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: Failed to connect to JVM. retry = %2\$s / %3\$s.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 連続で接続に失敗した回数 %3\$s: リトライ回数 ※「retry = %2\$s / %3\$s」は、連続で接続に失敗した回数がリトライ回数を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
Failed to write exit code.	JVM モニタリソースが終了コードを記録するファイルに書き込みできませんでした。	ディスク空き容量が十分か確認してください。
Failed to be started JVM Monitor.	JVM モニタリソースの起動に失敗しました。	JVM 運用ログを確認して開始できない原因を取り除いてから、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM モニタリソースを再起動してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
JVM Monitor already started.	JVM モニタリソースはすでに起動しています。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM モニタリソースを再起動してください。
%1\$s: GARBAGE_COLLECTOR_MXBEAN_DOMAIN_TYPE is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: GarbageCollectorMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the GC stat.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: GC stat is invalid. last.getCount = %2\$s, last.getTime = %3\$s, now.getCount = %4\$s, now.getTime = %5\$s.	監視対象の Java VM から GC 発生回数、GC 実行時間の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 前回計測時点の GC 発生回数 %3\$s: 前回計測時点の GC 総実行時間 %4\$s: 今回計測時点の GC 発生回数 %5\$s: 今回計測時点の GC 総実行時間	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
<pre>%1\$s: GC average time is too long. av = %6\$s, last.getCount = %2\$s, last.getTime = %3\$s, now.getCount = %4\$s, now.getTime = %5\$s, error_count = %7\$s / %8\$s.</pre>	監視対象の Java VM で GC 実行時間の平均がしきい値を超えています。 %1\$s : 監視対象の Java VM 名称 %2\$s : 前回計測時点の GC 発生回数 %3\$s : 前回計測時点の GC 総実行時間 %4\$s : 今回計測時点の GC 発生回数 %5\$s : 今回計測時点の GC 総実行時間 %6\$s : 前回計測時点から今回計測時点までに実行された GC 実行時間の平均 %7\$s : しきい値を連続して超えた回数 %8\$s : 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %7\$s / %8\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: GC count is too frequently. count = %4\$s last.getCount = %2\$s, now.getCount = %3\$s, error_count = %5\$s / %6\$s.	監視対象の Java VM で GC 発生回 数がしきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 前回計測時点の GC 発生 回数 %3\$s: 今回計測時点の GC 発生 回数 %4\$s: 前回計測時点から今回計測 時点までの GC 発生回数 %5\$s: しきい値を連続して超えた 回数 %6\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %5\$s / %6\$s」 は、しきい値を連続して超えた回 数が異常判定しきい値を超えた後 は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直して ください。
%1\$s: RuntimeMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得 に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the runtime stat.	監視対象の Java VM から情報取得 に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が 高くなっていないかを確認してく ださい。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: MEMORY_MXBEAN_NAME is invalid. %2\$s, %3\$s.	監視対象の Java VM からメモリ情 報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: メモリプールの名称 %3\$s: メモリの名称	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。
%1\$s: MemoryMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からメモリ情 報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the memory stat.	監視対象の Java VM からメモリ情 報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が 高くなっていないかを確認してく ださい。
%1\$s: MemoryPool name is undefined. memory_name = %2\$s.	監視対象の Java VM からメモリ情 報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 計測対象の Java メモリプー ル名	監視対象の Java VM の動作環境が 正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: MemoryPool capacity is too little. memory_name = %2\$s, used = %3\$s, max = %4\$s, ratio = %5\$s%, error_count = %6\$s / %7\$s.	監視対象の Java VM の Java メモリプールの空き容量がしきい値を下回りました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 計測対象の Java メモリプール名 %3\$s: Java メモリプールの使用量 %4\$s: Java メモリプールの使用可能な最大量 %5\$s: Java メモリプールの利用率 %6\$s: しきい値を連続して超えた回数 %7\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %6\$s / %7\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: THREAD_MXBEAN_NAME is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: ThreadMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the thread stat.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Detect Deadlock. threads = %2\$s.	監視対象の Java VM でスレッドのデッドロックが発生しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: デッドロックしたスレッドの ID	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: Thread count is too much(%2\$s). error_count = %3\$s / %4\$s.	監視対象の Java VM でスレッドの起動数がしきい値を超えました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 計測時点でのスレッド起動数 %3\$s: しきい値を連続して超えた回数 %4\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %3\$s / %4\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: ThreadInfo is null.Thread count = %2\$s.	監視対象の Java VM でスレッドの情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 計測時点でのスレッド起動数	監視対象の Java VM のバージョンの動作環境が正しいか確認してください
%1\$s: Failed to disconnect.	監視対象の Java VM からの切断に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	-

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Failed to connect to WebLogicServer.	監視対象の WebLogic Server の接続に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: Failed to connect to Sun JVM.	監視対象の Java VM、WebOTX の接続に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM、WebOTX 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
Failed to open the %1\$s.	JVM 統計ログの出力に失敗しました。 %1\$s: HA/JVMSaverJVM 統計ログファイル名称	ディスク空き容量が十分か、オープン済みのファイル数が上限を超えていないか確認してください。
%1\$s: Can't find monitor file.	監視をしません。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	-
%1\$s: Can't find monitor file, monitor stopped[thread:%2\$s].	監視を停止します。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 計測スレッドの種類	-
%1\$s: Failed to create monitor status file.	内部ファイルの作成に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	ディスク空き容量やボリュームのファイル最大数が十分か確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Failed to delete monitor status file.	内部ファイルの削除に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	ハードディスクに問題がないか確認してください。
%1\$s: com.bea.Type=ServerRuntime is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: WorkManagerRuntimeMBean or ThreadPoolRuntimeMBean is invalid.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: Failed to measure the WorkManager or ThreadPool stat.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1\$s: ThreadPool stat is invalid. last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s: 今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: WorkManager stat is invalid. last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s.	監視対象の WebLogic Server の ワークマネージャで待機リクエ スト数の計測に失敗しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 前回計測時点の待機リクエ スト数 %3\$s: 今回計測時点の待機リクエ スト数	監視対象の WebLogic Server の バージョンの動作環境が正しいか 確認してください。
%1\$s: PendingRequest count is too much. count = %2\$s, error_count = %3\$s / %4\$s.	監視対象の WebLogic Server のス レッドプールで待機リクエスト数 が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 今回計測時点の待機リクエ スト数 %3\$s: しきい値を連続して超えた 回数 %4\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %3\$s / %4\$s」 は、しきい値を連続して超えた回 数が異常判定しきい値を超えた後 は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で 動作する Java アプリケーションを 見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: PendingRequest increment is too much. increment = %4\$s%, last.pending = %2\$s, now.pending = %3\$s, error_count = %5\$s / %6\$s.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 前回計測時点の待機リクエスト数 %3\$s: 今回計測時点の待機リクエスト数 %4\$s: 前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分 %5\$s: しきい値を連続して超えた回数 %6\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %5\$s / %6\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Throughput count is too much. count = %2\$s, error_count = %3\$s / %4\$s.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %3\$s: しきい値を連続して超えた回数 %4\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %3\$s / %4\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
<code>%1\$s: Throughput increment is too much. increment = %4\$s, last.throughput = %2\$s, now.throughput = %3\$s, error_count = %5\$s / %6\$s.</code>	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 <code>%1\$s</code>: 監視対象の Java VM 名称 <code>%2\$s</code>: 前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 <code>%3\$s</code>: 今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 <code>%4\$s</code>: 前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分 <code>%5\$s</code>: しきい値を連続して超えた回数 <code>%6\$s</code>: 異常判定しきい値 ※ 「<code>error_count = %5\$s / %6\$s</code>」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: PendingRequest count is too much. appName = %2\$s, name = %3\$s, count = %4\$s, error_count = %5\$s / %6\$s.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: アプリケーション名 %3\$s: ワークマネージャ名 %4\$s: 待機リクエスト数 %5\$s: しきい値を連続して超えた回数 %6\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %5\$s / %6\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: PendingRequest increment is too much. appName = %2\$s, name = %3\$s, increment = %6\$s%, last.pending = %4\$s, now.pending = %5\$s, error_count = %7\$s / %8\$s.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエストの数の増分が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: アプリケーション名 %3\$s: ワークマネージャ名 %4\$s: 前回計測時点の待機リクエスト数 %5\$s: 今回計測時点の待機リクエスト数 %6\$s: 前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分 %7\$s: しきい値を連続して超えた回数 %8\$s: 異常判定しきい値 ※ 「error_count = %7\$s / %8\$s」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: Can't find WorkManager. appName = %2\$s, name = %3\$s.	設定したワークマネージャが WebLogic Server から取得できません。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: アプリケーション名 %3\$s: ワークマネージャ名	[監視対象の WebLogic ワークマネージャ] の設定を見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: analyze of average start[%2\$s].	平均値の分析を開始しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: スレッド名	-
%1\$s: analyze of average finish[%2\$s].state = %3\$s.	平均値の分析が終了しました。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: スレッド名 %3\$s: 監視対象の状態	-
%1\$s: Average of PendingRequest count is too much. count = %2\$s.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1\$s: Average of Throughput count is too much. count = %2\$s.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: 今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Average of PendingRequest count is too much. AppName = %2\$s, Name = %3\$s, count = %4\$s.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1\$s: 監視対象の Java VM 名称 %2\$s: アプリケーション名 %3\$s: ワークマネージャ名 %4\$s: 今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
Error: Failed to operate clpjra_bigip.[%1\$s]	%1\$s: エラーコード	設定内容を見直してください。
action thread execution did not finish. action is alive = %1\$s.	[コマンド] がタイムアウトしました。 %1\$s:[コマンド] で設定した実行ファイル名	[コマンド] を強制終了させてください。 [コマンドタイムアウト] を見直してください。 高負荷などタイムアウトした原因を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1\$s: Failed to connect to Local JVM. cause = %2\$s.	JBoss への接続に失敗しました。 %1\$s: 監視対象名 %2\$s: 失敗の詳細原因 詳細原因は以下のいずれかです。 • Failed to find tools.jar, please set JDK's path for the Java installation path. • Load tools.jar exception • Get Local JVM url path exception • Failed to get process name • Failed to connect to JBoss JVM. • Failed to find management-agent.jar, please set JDK's path for the Java installation path	[Java インストールパス], [プロセス名] を見直してください。 [Java インストールパス] には JRE ではなく、JDK を設定してください。 JBoss が起動しているか確認してください。

4.6 クラスタ構成情報チェックの詳細情報

4.6.1 クラスタプロパティ

チェック内容	ID	メッセージ	対処
ポート番号タブ：ポート番号 チェック	1011	チェック処理が失敗しました。	sysctl コマンドが使用可能であるか確認してください。
	1012	ポート番号 %1 は自動割り当てポートに含まれています。	自動割り当てポート範囲外のポート番号を設定してください。
ポート番号タブ (ログ)：ポート 番号チェック	1031	チェック処理が失敗しました。	sysctl コマンドが使用可能であるか確認してください。
	1032	ポート番号 %1 は自動割り当てポートに含まれています。	自動割り当てポート範囲外のポート番号を設定してください。
シャットダウン監視の /dev/watchdog 使用チェック	1201	/dev/watchdog は既に使用されている可能性があります。	CLUSTERPRO 以外で /dev/watchdog デバイスを使用する機能を動作しないように設定してください。

4.6.2 モニタリソース

チェック内容	ID	メッセージ	対処
userw の/dev/watchdog 使用 チェック	3001	/dev/watchdog は既に使用されている可能性があります。	CLUSTERPRO 以外で /dev/watchdog デバイスを使用する機能を動作しないように設定してください。

4.6.3 ハートビートリソース

チェック内容	ID	メッセージ	対処
hb の ping チェック	4011	チェック処理が失敗しました。	ping(ping6) コマンドが使用可能であるか確認してください。
	4012	%1 に ping が届きません。	ping が到達可能な IP アドレスが設定されているか確認してください。

4.6.4 その他

チェック内容	ID	メッセージ	対処
SELinux の設定チェック	5021	チェック処理が失敗しました。	getenforce、semanage、または restorecon コマンドが使用可能であるか確認してください。
	5022	SELinux 用の設定が行われていません。	『インストール&設定ガイド』 - 「SELinux に関する設定をおこなう (必須)」を参照してください。
セキュアブートの無効化チェック	5061	チェック処理が失敗しました。	mokutil または bootctl コマンドが使用可能であるか確認してください。
	5062	セキュアブートが無効化されていません。	セキュアブートを無効化してください。
カーネルチェック	5031	未対応のカーネルです。	対応カーネルを確認してください。
		対応カーネルを確認してください。	

4.6.5 非推奨設定確認

チェック内容	ID	メッセージ	対処
非活性異常時の復旧動作チェック (%1)	6001	非活性異常検出時の復旧動作が「何もしない」に設定されています。 「何もしない」以外を設定することを推奨します。	非活性異常検出時の最終動作は「何もしない」以外を設定することを推奨します。

第 5 章

免責・法的通知

5.1 免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- 日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- 本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

5.2 商標情報

- CLUSTERPRO[®] は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。
- RPM は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Oracle、Oracle Database、Solaris、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Container、Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- VMware は Broadcom Inc. の米国および各国での登録商標または商標です。
- SUSE は、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。
- WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。
- JBoss は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. たはその子会社の登録商標です。
- F5、F5 Networks、BIG-IP、および iControl は、米国および他の国における F5 Networks, Inc. の商標または登録商標です。
- IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。
- Ubuntu は、Canonical Ltd. の商標または登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第 6 章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2025/04/08	新規作成
2	2025/09/22	内部バージョン 5.3.1-1 に対応
3	2025/11/07	誤記修正等
4	2026/01/30	誤記修正等
5	2026/04/24	誤記修正等
6	2026/10/02	誤記修正等